

令和8年

大仙市中学生議会

実施記録集



令和8年1月8日（木）

主催：大仙市議会・大仙市教育委員会・大仙市

【 目 次 】

大仙市中学生議会実施要項	1～2
大仙市中学生議会 次第	3
大仙市中学生議会 議事日程【第1号】	4
大仙市中学生議会 議席指定一覧表	5
一般質問通告書	
一般質問者と質問通告内容	6～17
<開会式>	
後藤 健 大仙市議会議長あいさつ	18
<中学生議会>	
会議録	19～51
<閉会式>	
振り返り（南外中学校 加賀 一花さん）	52
記念品贈呈	52
中学生議員代表 お礼のことば（大曲南中学校 菅原 丈瑠さん）	53
伊藤雅己 大仙市教育長 あいさつ	53～54
<議員との懇談会>	55～63
令和8年 中学生議会感想	64～73

令和8年 大仙市中学生議会 実施要項

1 目的

市議会の議場を利用し、未来を担う中学生が“議長や議員”となって、まちづくりや教育行政など、生徒に身近なテーマについて一般質問形式で質問・提案を行い、市政及び市議会への興味と理解を深めるとともに、その体験を実際の学校生活（生徒会活動等）や地域の行事などで役立てていくことにより、総合的な学力の育成の一層の推進を図ります。

中学生議員からいただいた意見などは、これからのまちづくりの参考にしていきます。

学校関係者・中学生議員の保護者も傍聴に訪れることから、市議会にも関心をもたれ、今後の市議会の活性化にもつながるものと期待されます。

2 主催

大仙市議会・大仙市教育委員会・大仙市

3 開催日時及び開催場所

令和8年1月8日（木）9：30～14：30 大仙市役所3階「本会議場」及び「大会議室」

4 日程

<開会式（本会議場）>

～中学生議員入場、記録用写真撮影～

1. 開式
2. 当局職員の紹介（議場席図をもって紹介：議会事務局長）
3. 議長あいさつ（後藤健 議長）
4. 中学生議長・副議長の紹介（議会事務局長）
5. 閉式

9：45

<中学生議会>

1. 開会（中学生議長）
2. 招集あいさつ（老松博行 市長）
3. 議席の指定（中学生議長）
4. 会議録署名議員の指名（中学生議長）
5. 会期の決定（中学生議長）
6. 一般質問 ※1校1質問 答弁含めて10分以内（再質問の有無は不問）
7. 閉会（中学生議長）

前半	10：00～10：50
休憩	10：50～11：00
後半	11：00～11：50

<閉会式>

1. 開式
2. 振り返り
3. 記念品の贈呈（後藤健 議長）
4. 中学生議員 お礼のことば
5. 教育長あいさつ
6. 閉式

12：00

<昼食・休憩>

12：00～13：00

<議員との懇談会（大会議室）>

1. 大仙市議会の紹介
2. ワールドカフェ方式での懇談会（近隣地域での5グループ、議員が回る）
①地域の課題 ②フリートーク
3. 感想発表

13：00

14：00

5 案内対象者

大仙市議会議員、大仙市教育委員会委員

6 当日の座席

- ・中学生議員は議員席に着席（学校ごとに隣の席になるように配慮）
- ・当局側も市長はじめ、各部長が通常の議会同様に着席。

7 中学生議員と質問等

- ・市内10中学校の1～2年生を対象に各校から2名を選出し、代表者20名を決定する。
- ・大仙市中学生サミット（大仙市教育委員会主催）の一環として実施する。
- ・10校（2人1組）の一般質問を実施する。

8 一般質問通告期限

令和7年12月18日（木）まで議会事務局に「一般質問発言通告書」及び発言内容の原稿用紙を教育委員会経由で提出する。原稿用紙は1枚半（600字）以内に収めること。

9 生徒等の送迎

3台の市バス等で、生徒及び引率等の送り迎えを行う。

- ① 本庁バス：仙北中 → 大曲南中 → 大曲西中 → 大仙市役所
- ② 西仙北大型バス：西仙北中 → 平和中 → 南外中 → 大仙市役所
- ③ 公用車：太田中 → 大仙市役所

※ 大曲中、中仙中、協和中は保護者の希望により保護者送迎。

10 インターネットにおける放映

市議会本会議同様大仙市議会公式YouTubeチャンネルでライブ中継を行う。中継の様子はアーカイブとして後日の視聴も可能。

11 広報活動

広報、市議会だよりに掲載するほか、マスコミ各社に連絡し、広報活動を行う。

12 後日の処理

- ① 後日、感想文を提出してもらい、議会ホームページや議会報等に掲載する。
- ② 実施記録集を作成し、写真データとともに中学生議員に記念品として配付する。

13 傍聴席

- ・パイプ椅子を設置し、案内者と保護者、学校引率者（各1名）を優先する。
- ・満席の場合は、議会事務局前のモニターを見ていただく。
- ・三脚、フラッシュを使用しての撮影、個人のSNSでの発信は禁止する。

14 中学生議員の役割分担

議長（前半進行：2名）	中仙中学校 2年	伊藤 笑花 富岡 絢仁	休憩時に交代
副議長（後半進行：2名）	仙北中学校 2年	佐々木 咲来 小松 依史	休憩時に交代
会議録署名議員（3名）	大曲西中学校 2年	三浦 樹	
	協和中学校 2年	進藤 嘉人	
	太田中学校 2年	上園 彬丸	
一般質問（2名×10校）	全中学校 全員		
振り返り（1名）	南外中学校 2年	加賀 一花	
記念品受領者（1名） お礼のことば（1名）	大曲南中学校 2年	最上 日咲 菅原 丈瑠	

大仙市中学生議会 次 第

【開会式】

～記録用写真撮影～

1. 開 式
2. 大仙市議会議長あいさつ
3. 中学生議長・副議長の紹介
4. 閉 式

【中学生議会 議事日程】

大仙市長招集あいさつ	
第1	議席の指定
第2	会議録署名議員の指名
第3	会期の決定(1日間)
第4	一般質問

【閉会式】

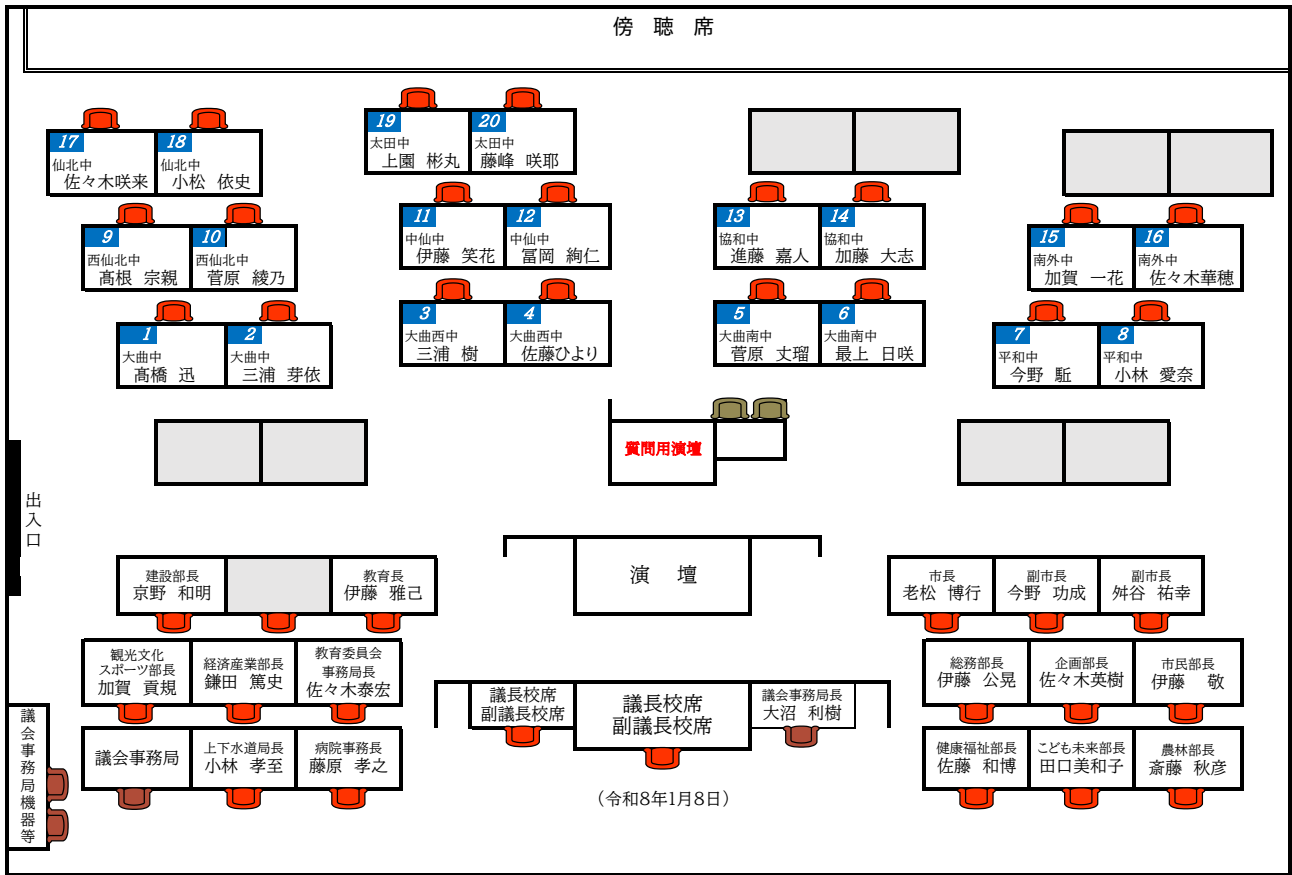
1. 開 式
2. 振り返り
3. 記念品の贈呈
4. 中学生議員 お礼のことば
5. 教育長あいさつ
6. 閉 式

令和8年 大仙市中学生議会 議事日程【第1号】

令和8年1月8日（木）午前10時 開 議

大仙市長招集あいさつ																																
第1	議席の指定																															
第2	会議録署名議員の指名																															
第3	会期の決定（1日間）																															
第4	一般質問	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">①</td> <td style="width: 35%;">仙北中学校</td> <td style="width: 60%;">佐々木 咲来・小松 依史</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">②</td> <td>大曲中学校</td> <td>高橋 迅・三浦 芽依</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">③</td> <td>大曲西中学校</td> <td>三浦 樹・佐藤 ひより</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">④</td> <td>大曲南中学校</td> <td>菅原 丈瑠・最上 日咲</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑤</td> <td>平和中学校</td> <td>今野 駈・小林 愛奈</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑥</td> <td>西仙北中学校</td> <td>高根 宗親・菅原 綾乃</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑦</td> <td>協和中学校</td> <td>進藤 嘉人・加藤 大志</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑧</td> <td>南外中学校</td> <td>加賀 一花・佐々木 華穂</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑨</td> <td>太田中学校</td> <td>上園 彬丸・藤峰 咲耶</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">⑩</td> <td>中仙中学校</td> <td>伊藤 笑花・富岡 絢仁</td> </tr> </table>	①	仙北中学校	佐々木 咲来・小松 依史	②	大曲中学校	高橋 迅・三浦 芽依	③	大曲西中学校	三浦 樹・佐藤 ひより	④	大曲南中学校	菅原 丈瑠・最上 日咲	⑤	平和中学校	今野 駈・小林 愛奈	⑥	西仙北中学校	高根 宗親・菅原 綾乃	⑦	協和中学校	進藤 嘉人・加藤 大志	⑧	南外中学校	加賀 一花・佐々木 華穂	⑨	太田中学校	上園 彬丸・藤峰 咲耶	⑩	中仙中学校	伊藤 笑花・富岡 絢仁
①	仙北中学校	佐々木 咲来・小松 依史																														
②	大曲中学校	高橋 迅・三浦 芽依																														
③	大曲西中学校	三浦 樹・佐藤 ひより																														
④	大曲南中学校	菅原 丈瑠・最上 日咲																														
⑤	平和中学校	今野 駈・小林 愛奈																														
⑥	西仙北中学校	高根 宗親・菅原 綾乃																														
⑦	協和中学校	進藤 嘉人・加藤 大志																														
⑧	南外中学校	加賀 一花・佐々木 華穂																														
⑨	太田中学校	上園 彬丸・藤峰 咲耶																														
⑩	中仙中学校	伊藤 笑花・富岡 絢仁																														

大仙市中学生議会 議場席図



令和8年
大仙市中学生議会

一 般 質 問

(令和8年1月8日)

【一般質問者と質問通告内容】

No.	学校名	学年・氏名	質問通告内容	答弁者	担当部
1	仙北中学校	2年 佐々木 咲来 小松 依史	仙北地域のスポーツ施設や文化施設エリアの活性化について	舩谷副市長	観光文化スポーツ部
2	大曲中学校	2年 高橋 迅 三浦 芽依	「大曲の花火」における物販販売を通じた中学生と地域との関わりについて	老松市長	経済産業部
3	大曲西中学校	2年 三浦 樹 佐藤 ひより	古紙・アルミ缶回収収益を活用した地域イベントの参加促進について	舩谷副市長	市民部
4	大曲南中学校	2年 菅原 丈瑠 最上 日咲	「中学生屋台」を中心とした市内全域の中学校主催のイベント開催について	伊藤教育長	教育委員会事務局
5	平和中学校	2年 今野 駈 小林 愛奈	神岡地域の民話や伝承を継承するための「神岡ふるさと学習」について	伊藤教育長	教育委員会事務局 企画部
6	西仙北中学校	2年 高根 宗親 菅原 綾乃	「大綱米プロジェクト」を通じた地域活性化について	老松市長	教育委員会事務局 企画部
7	協和中学校	2年 進藤 嘉人 加藤 大志	「ちいきみんなのきょうわ祭」の連携強化について	伊藤教育長	教育委員会事務局 企画部
8	南外中学校	2年 加賀 一花 佐々木 華穂	誰もが安心して生活するための情報発信について	今野副市長	健康福祉部 総務部 企画部
9	太田中学校	2年 上園 彬丸 藤峰 咲耶	地域の大切な資源である「大仙市の温泉」を活かした観光誘致について	老松市長	観光文化スポーツ部
10	中仙中学校	2年 伊藤 笑花 富岡 絢仁	「コスモスで地域を活性化」について	今野副市長	企画部

一般質問発言通告書

令和7年11月28日

午後5時15分 受付

No	発言事項	質問要旨
1	<p>【答弁担当課案】 観光文化スポーツ部観光交流課 スポーツ振興課</p> <p>仙北地域のスポーツ施設や文化施設エリアの活性化について</p>	<p>① 大曲駅からのアクセスの良さや秋田空港までの利便性をPRする方法について</p> <p>② 高齢者から子どもまであらゆる年齢層が参加できる「月イチスポーツイベント」の企画について</p> <p>(再) ふれあい文化センターのエリアに物産コーナーを設置することについて</p>
答弁を求めるもの		市長 ほか

上記のとおり通告します。

令和7年11月28日

大仙市立仙北中学校 2年 氏名 佐々木 咲 来

2年 氏名 小松 依 史

大仙市中学生議会 議長 様

一般質問発言通告書

令和7年11月28日

午後5時15分 受付

No	発言事項	質問要旨
1	<p>【答弁担当課案】 経済産業部花火産業推進課</p> <p>「大曲の花火」における物販販売を通した中学生と地域との関わりについて</p>	<p>① 「ひんやりタオル」や「うちわ」など「大曲の花火」関連グッズを、販売まで見越してデザインし作成したいが、どのような支援が可能かについて伺う。</p> <p>② 作成したグッズを、花火当日に会場や関連施設で販売したいと思うが、可能かについて伺う。</p>
答弁を求めるもの		市長 ほか

上記のとおり通告します。

令和7年11月28日

大仙市立大曲中学校 2年 氏名 高橋 迅
2年 氏名 三浦 芽依

大仙市中学生議会 議長 様

一般質問発言通告書

令和7年11月28日

午後5時15分 受付

No	発言事項	質問要旨
1	<p>【答弁担当課案】 市民部生活環境課</p> <p>古紙・アルミ缶回収回収益を活用した地域イベントの参加促進について</p>	<p>① 古紙・アルミ缶回収に協力した家庭や個人に「ポイント」や「参加券」を付与し、地域イベント（商店街フェア、学校祭）で使える特典にし、参加を促進したいが、可能かどうか。</p> <p>② 地域イベントの様子を中学生がリポート、撮影・編集し、SNSや市の広報で発信したいかどうか。</p>
答弁を求めるもの		市長 ほか

上記のとおり通告します。

令和7年11月28日

大仙市立大曲西中学校

2年

氏名 み三 うら浦 いつき樹

2年

氏名 き佐 とう藤 ひよりひより

大仙市中学生議会 議長 様

一般質問発言通告書

令和7年11月28日

午後5時15分 受付

No	発言事項	質問要旨
1	<p>【答弁担当課案】 教育委員会事務局</p> <p>「中学生屋台」を中心とした市内全域の中学校主催のイベント開催について</p>	<p>① 市内中学校が地域や企業と連携して取り組むイベントの開催が、地域活性化に大きな役割を果たすと考えるが、イベント実施の可能性や課題についての見解を伺う。</p> <p>* 「中学生屋台」とは、中学生が主体となって企画・運営する、屋外での飲食や物販、体験コーナーなどを行う屋台のことを指す。</p>
答弁を求めるもの		市長 ほか

上記のとおり通告します。

令和7年11月28日

大仙市立大曲南中学校 2年 氏名 菅 原 丈 瑠
2年 氏名 最 上 日 咲

大仙市中学生議会 議長 様

一般質問発言通告書

令和7年11月28日

午後5時15分 受付

No	発言事項	質問要旨
1	<p>【答弁担当課案】 教育委員会事務局</p> <p>神岡地域の民話や伝承を継承するための「神岡ふるさと学習」について</p>	<p>① 神岡地域に残っている民話や伝承を将来に残していくために、市の関連施設にPRコーナーの設置を提案したい。市としての考えを伺う。</p> <p>(再) 中学生が学んだ内容を生かし、保育園や小学校へ「出前授業」を行うことについて</p>
答弁を求めるもの		市長 ほか

上記のとおり通告します。

令和7年11月28日

大仙市立平和中学校 2年

氏名 こん 今 の 野 かける 駈

2年

氏名 こ 小 ぼやし 林 あい 愛 な 奈

大仙市中学生議会 議長 様

一般質問発言通告書

令和7年11月28日

午後5時15分 受付

No	発言事項	質問要旨
1	<p>【答弁担当課案】 教育委員会事務局生涯学習課 企画部地域活動応援課</p> <p>「大綱米プロジェクト」を通じた 地域活性化について</p>	<p>① 「刈和野の大綱引き」の伝統を未来につなぐため本校は園、小学校、高等学校と共に「大綱米プロジェクト」に取り組んでいる。 本プロジェクトの活動の様子を発信し、多くの方に関心をもってもらい参加を募りたい。そこで、市の協力を得たSNS等での発信について見解を伺う。</p>
答弁を求めるもの		市長 ほか

上記のとおり通告します。

令和7年11月28日

大仙市立西仙北中学校 2年 氏名 たか高 ね根 むね宗 ちか親
2年 氏名 すが菅 わら原 あや綾 の乃

大仙市中学生議会 議長 様

一般質問発言通告書

令和7年11月28日

午後5時15分 受付

No	発言事項	質問要旨
1	<p>【答弁担当課案】 教育委員会事務局生涯学習課 企画部地域活動応援課</p> <p>「ちいきみんなのきょうわ祭」 の連携強化について</p>	<p>① 本校では協和公民館が主催する「ちいきみんなのきょうわ祭」と連携して学校祭を開催している。協和地域の魅力発信をさらに進めていくため、市としてどのような支援が可能か、見解を問う。</p>
答弁を求めるもの		市長 ほか

上記のとおり通告します。

令和7年11月28日

大仙市立協和中学校 2年 氏名 進 藤 嘉 人
2年 氏名 加 藤 大 志

大仙市中学生議会 議長 様

一般質問発言通告書

令和7年11月28日

午後5時15分 受付

No	発言事項	質問要旨
1	<p>【答弁担当課案】</p> <p>健康福祉部社会福祉課 総務部DX推進課 企画部広報広聴課</p> <p>誰もが安心して生活するための 情報発信について</p>	<p>① 高齢者などにも確実に届く情報発信体制を整えること で、誰もが安心して生活できる地域づくりにつなが ると考えるがどうか。</p>
答弁を求めるもの		市長 ほか

上記のとおり通告します。

令和7年11月28日

大仙市立南外中学校 2年 氏名 加賀 一花
2年 氏名 佐々木 華穂

大仙市中学生議会 議長 様

一般質問発言通告書

令和7年11月28日

午後5時15分 受付

No	発言事項	質問要旨
1	<p>【答弁担当課案】 観光文化スポーツ部観光交流課 観光施設課</p> <p>地域の大切な資源である「大仙市の温泉」を活かした観光誘致について</p>	<p>① 市内温泉施設での特産品販売（例：太田中とバンヴェールのコラボ「モニカパン」の販売）は可能であるか。</p> <p>② 市内各地の温泉の魅力情報発信について、太田中で開発するオリジナルキャラクターをデザインした「温泉スタンプラリーカード」の発行は可能であるか。</p> <p>③ 地域イベントと自然体験の体験型プログラムについて、真木真昼県立自然公園でのハイキングと中里温泉との組み合わせで、太田地区への滞在時間を増やして観光振興・促進につなげてはどうか。</p>
答弁を求めるもの		市長 ほか

上記のとおり通告します。

令和7年11月28日

大仙市立太田中学校

2年

氏名

上 園 彬 丸

2年

氏名

藤 峰 咲 耶

大仙市中学生議会 議長 様

一般質問発言通告書

令和7年11月28日

午後5時15分 受付

No	発言事項	質問要旨
1	<p>【答弁担当課案】 企画部総合政策課</p> <p>「コスモスで地域を活性華」について</p>	<p>① 「大仙市の花」であるコスモスを生かしたまちづくりについて、学校と栽培農家が連携して市全体で栽培を促進し、観光資源として発信していくのはどうか。</p>
答弁を求めるもの		市長 ほか

上記のとおり通告します。

令和7年11月28日

大仙市立中仙中学校 2年 氏名 伊藤笑花
2年 氏名 富岡絢と仁

大仙市中学生議会 議長 様

開 会 式

後藤 ^{たかし} 健 大仙市議会議長 あいさつ

皆さん、おはようございます。

大仙市議会議長の後藤でございます。

本日は令和8年大仙市議会中学生議会の開催に当たり、大変ご多忙のところご出席いただきました皆さま、そして何より本日のためにさまざま準備を重ねてこられた市内中学校の代表生徒の皆さんに、心から感謝と敬意を表したいと思っております。

大仙市中学生議会は、平成26年に初めて開催されて以降、3年に一度のペースで開催されてきております。今回、5回目の開催ということになります。

これまで長きにわたり、この取り組みを継続してこられたのは、学校関係の皆さま、それから保護者の皆さま、そして市議会・市行政が一体となり、次代を担う若い皆さんの声を市政に生かしたいという共通の思いを大切にしてきたからにほかなりません。

本日参加されている皆さんは、それぞれの学校、そして地域を代表してこの議場に至っております。これから行われる一般質問は、実際の市議会と同じ形式で進められます。自分たちが暮らす地域で感じている課題や、もっとこうなったらいいなと思うようなことを市当局に直接問いかける、これは決して体験や模擬だけにとどまるものではありません。皆さん一人一人の考えは大仙市の未来を考える上で、私たち大人にとっても大変貴重なものになります。

これまでの中学生議会では、生徒の皆さんの発想から、大仙市のマスコットキャラクター「まるびちゃん」が誕生したほか、地域の小・中学校と支援学校がパラスポーツを通じて交流する事業が実施されるなど、実際の市政に反映された事例も生まれております。これは皆さんの声の本物の力を持っていることの証であります。

どうか今日は遠慮することなく自分たちの言葉で、自分たちの思いを率直に発言してほしいと思います。正解を求める必要はありません。大切なのは、自分たちのまちをより良くしたいという気持ちと、それを言葉にして伝える勇気だと思っております。

大仙市議会は皆さんの意見を真摯^{しんし}に受けとめ、これからの市政運営に生かしてまいります。

本日の経験が将来、地域や社会に主体的に関わるきっかけとなることを心から願いまして、開会に当たってのあいさつといたします。

今日は頑張ってください。



令和8年 大仙市中学生議会会議録第1号

令和8年1月8日（木曜日）

議事日程第1号

令和8年1月8日（木曜日）午前10時 開議

- 第1 議席の指定
 - 第2 会議録署名議員の指名
 - 第3 会期の決定（1日間）
 - 第4 一般質問
-

出席議員（20人）

1番 高橋 迅	2番 三浦 芽依	3番 三浦 樹
4番 佐藤 ひより	5番 菅原 丈瑠	6番 最上 日咲
7番 今野 駈	8番 小林 愛奈	9番 高根 宗親
10番 菅原 綾乃	11番 伊藤 笑花	12番 富岡 絢仁
13番 進藤 嘉人	14番 加藤 大志	15番 加賀 一花
16番 佐々木 華穂	17番 佐々木 咲来	18番 小松 依史
19番 上園 彬丸	20番 藤峰 咲耶	

欠席議員（0人）

遅刻議員（0人）

早退議員（0人）

説明のため出席した者

市 長	老松 博行	副 市 長	今野 功成
副 市 長	舩谷 祐幸	教 育 長	伊藤 雅己
総 務 部 長	伊藤 公晃	企 画 部 長	佐々木 英樹

市民部長	伊藤敬	健康福祉部長	佐藤和博
こども未来部長	田口美和子	農林部長	斎藤秋彦
経済産業部長	鎌田篤史	観光文化スポーツ部長	加賀貢規
建設部長	京野和明	病院事務長	藤原孝之
教育委員会事務局長	佐々木泰宏	上下水道局長	小林孝至
総務課長	三浦政輝		

議会事務局職員出席者

局長	大沼利樹	参事	佐藤和人
主幹	佐藤孝子	主幹	黒田貴彦
主査	藤澤正信		

午前9時52分 開 会

○議長（伊藤笑花） 皆さん、おはようございます。

先ほど、ご紹介をいただきました議長の中仙中学校、伊藤笑花です。

○議長（富岡絢仁） 同じく、富岡絢仁です。

○議長（伊藤笑花） 私たちのまち大仙市が、希望に満ちた住みよいまちになるように、今日の中学生議会を頑張りたいと思いますので、中学生議員の皆さんのご協力をお願いいたします。

また、本日は、老松市長さん、後藤市議会議長さんをはじめ、多くの関係者の皆さんにご出席をいただき、ありがとうございます。

【議長 着席】

○議長（伊藤笑花） それでは、ただ今より、令和8年大仙市中学生議会を開会いたします。市長さんから招集のあいさつがあります。老松市長さん。

【老松市長 登壇】

○市長（老松博行） おはようございます。

大仙市長の老松博行と申します。どうぞよろしく願いいたします。

本日は、令和8年大仙市中学生議会を招集いたしましたところ、皆さんからは、議員としてご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

将来の大仙市を背負って立つ皆さんが議場で一堂に会する姿を目の前にし、大変心

強く感じております。また、私自身も新年早々、元気をいただいているところであります。

大仙市中学生議会は、各中学校の代表の皆さんが実際に議会の議長や議員になって、まちづくりに関する質問や提案を行うことにより、地方自治の車の両輪に例えられます。市の執行機関と市議会が、互いに協力して市の仕事を前に進めていくことについて理解を深め、興味を持ってもらうことを目的としております。

先ほどもご紹介がありましたけれども、この取り組みは、平成26年から3年に1度開催されており、今回が5回目となるものであります。

私は、皆さんがこうした機会を通じて、市政を身近に感じ、まちづくりに関する問題意識を持つことは、さまざまな場面で学びの質を高めることにつながるだけではなく、今後の人生において貴重な体験になるものと思っております。

また、皆さんに、中学生らしい新鮮な視点や切り口で質問や提案を行っていただくことは、市にとりましても大変貴重な機会であると思っております。

皆さんからの質問については、通常の市議会に倣い、質問項目について事前に通告をいただいております。

その項目には、SDGsやDX、防災のほか、本市ならではの地域資源を活用した活性化策などに関する事項が並んでおり、大変興味深く拝見し、また、大変感心したところであります。

質問の詳しい内容につきましては、この後、実際に皆さんの声で直接問い掛けや提案をしていただくわけではありますが、私たちもこの日のために、関係部局で打ち合わせをしたところであります。

皆さんの質問をしっかりと伺いし、皆さんとともに、より良い大仙市をつくっていくという思いで、誠心誠意お答えさせていただきたいと思っております。

本日のこの中学生議会在、皆さん一人一人にとりまして、心に残る経験となりますことを願ひまして、私からの招集のあいさつとさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

【老松市長 降壇】

午前10時00分 開 議

○議長（伊藤笑花） これより、本日の会議を開きます。

○議長（伊藤笑花） 本日の議事は、議事日程第1号をもって進めます。

○議長（伊藤笑花） 日程第1、議席の指定を行います。

議席は、お手元に配付しております議場席図のとおり議長において指定いたします。

○議長（伊藤笑花） 日程第2、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、議席番号3番、大曲西中学校、三浦樹さん。

13番、協和中学校、進藤嘉人さん。19番、太田中学校、上園彬丸さん。

以上、3名の方々をお願いいたします。

○議長（伊藤笑花） 日程第3、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。中学生議会の会期は、本日1日としたいと思っております。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（伊藤笑花） ご異議なしと認めます。よって、会期は本日1日と決定いたしました。

○議長（伊藤笑花） 日程第4、一般質問を行います。

一般質問は通告書のとおり、学校ごとに行います。順次、質問をお願いします。

最初に仙北中学校、17番、佐々木咲来さんと、18番、小松依史さんをお願いします。

○仙北中学校（佐々木咲来） はい、議長、17番。

○仙北中学校（小松依史） はい、議長、18番。

【仙北中学校議員 対面式演壇へ登壇】

○議長（伊藤笑花） それでは、通告の内容について質問をお願いします。

○仙北中学校（佐々木咲来） 仙北中学校の佐々木咲来です。

仙北地域のスポーツ施設や文化エリアの活性化について、質問します。

仙北地域にある多目的人工芝グラウンド「ソラーレ」などのスポーツ施設では、近年、さまざまな大会やスポーツ合宿が開催されています。まず、昨年度の利用状況がど

のようになっているのかをお伺いします。その上で、私たちはこのエリアをさらに活性化するため、二つの提案を考えました。

一つ目は、交通の利便性をより分かりやすくPRすることです。大曲駅からのアクセスの良さや、秋田空港からも来やすいという強みを積極的に発信し、市外からの利用者増加が期待できます。

また、可能な範囲でユニバーサルデザインを意識した施設の改良ができれば、より多くの競技に対応できるスポーツエリアを目指すことができると考えます。選手だけでなく、観客も含めた利用の広がりにつながるのではないのでしょうか。

二つ目は、高齢者から子どもまで参加できる市民参加型の「月イチスポーツイベント」の開催です。ポッチャやモルック、スポーツスタッキングなど、誰でも気軽に楽しめる競技を取り入れることで、運動不足の解消や健康づくりにつながると考えます。

さらに、参加ポイント制を導入することで、市内の飲食店で使える割引券と交換する仕組みにすることで、地域経済への波及効果も期待できます。

以上について、市としてのお考えをお聞かせください。

○議長（伊藤笑花） 質問が終わりました。答弁をお願いします。舩谷副市長さん。

【舩谷副市長 登壇】

○副市長（舩谷祐幸） 仙北中学校、佐々木咲来さん、小松依史さんの質問にお答えします。

質問の「仙北地域のスポーツ施設や文化施設エリアの活性化」についてであります。はじめに、仙北地域にあるスポーツ施設の利用状況につきましては、「ふれあいスポーツランド・ソラーレ」や体育館、野球場、テニスコートなどを含めると、年間8万人を超える利用となっております。

この利用者数は大仙市の中でも特に多く、このスポーツエリアが市のスポーツ振興の拠点になっていることを示しております。

今回お二人から、そのスポーツエリアをさらに盛り上げようご提案をいただいたことは、市としても大変うれしく受け止めているところであります。

ご提案の一つ、「大曲駅からのアクセスの良さや空港までの利便性をPRする方法について」であります。市としてもお二人と同じ考えを持っています。これまでも優れた交通利便性を強みとして、スポーツ合宿の誘致やさまざまな大会の開催に取り組んできたところであり、昨年の夏には「世界少年野球大会秋田大会」という世界的なス

ポーツ大会の招致を実現しております。

また、スポーツと観光を組み合わせたスポーツツーリズムにも取り組んでおり、県内外から多くのチームが集う全国・全県500歳野球大会などを開催し、交流人口の拡大や地域のにぎわい創出につなげております。

今後も、ご提案のように、交通利便性の良さを強みに、さまざまな媒体を活用しながら積極的に情報を発信するとともに、今後の施設修繕においてはユニバーサルデザインの視点を取り入れるなど、引き続き、同エリアの活性化とスポーツの振興に取り組んでいきたいと思っております。

次に、二つ目の提案であります「月イチスポーツイベントの開催」につきましては、市としても、運動不足の解消や健康増進につながる有意義な提案だと受け止めております。今後におきまして、新たなスポーツイベントを企画する際には、ぜひ参考にさせていただきたいと思っております。

また、こうしたイベントを実施することとなった際には「健幸まちづくりプロジェクト」と連携したいと考えております。このプロジェクトでは、イベント参加者に健幸ポイントを付与する取り組みも行っており、保有ポイントに応じて「大曲の花火」の観覧席や特産品の進呈、飲食店等で使えるQUOカード、PAYポイントへの交換などを行っております。健康づくりと地域経済の活性化にもつながる仕組みであり、まさに、お二人のアイデアと合致する内容だと考えております。

今後、ご提案のようなイベントを開催することとなった際には、お二人はもちろん会場の皆さんからもぜひ参加をしていただきたいと思います。以上であります。

【舛谷副市長 降壇】

○議長（伊藤笑花） 再質問はありませんか。

○仙北中学校（小松依史） はい、議長。

○議長（伊藤笑花） はい、18番、小松さん、再質問をお願いします。

○仙北中学校（小松依史） 仙北中学校の小松依史です。再質問をします。大きな大会やイベントの開催時に、ふれあい文化センターエリアの一角に物産コーナーを設けることを提案します。このエリアにはお土産や特産品を購入できる場所が少なく、大仙市の魅力を発信する良い機会になると考えました。この考えについて、市の考えをお聞かせください。

○議長（伊藤笑花） 再質問に対する答弁をお願いします。舛谷副市長さん。

○副市長（舛谷祐幸） 佐々木咲来さん、小松依史さんの再質問にお答えします。

質問の、ふれあい文化センターへの物産コーナーの設置についてでありますけれども、お土産品や特産品を購入できる場所については、施設から車で10分圏内に、大曲駅併設の観光情報センターや花火通り商店街、それから道の駅なかせん、そして商業施設などさまざまな店舗が存在しています。

こうした状況の中で、市が主体となりまして、新たな物産販売コーナーを設置することは、お土産品を扱うお店の売上の減少など、少なからず影響が及ぶことも予想されますので、慎重に考えていかなければならないことだと思っています。

今後、取り巻く環境の変化などによりまして、施設利用者からたくさんの方の要望が寄せられた際には、将来的な設置の可能性について検討してまいりたいと考えております。

ご質問ありがとうございました。

○議長（伊藤笑花） 再々質問はありませんか。

○仙北中学校（佐々木咲来） ありません。丁寧にご説明いただきありがとうございました。

○議長（伊藤笑花） これにて仙北中学校、17番、佐々木咲来さんと、18番、小松依史さんの質問を終わります。

【仙北中学校議員 自席へ】

.....
○議長（伊藤笑花） 次に、大曲中学校、1番、高橋迅さんと、2番、三浦芽依さんをお願いします。

○大曲中学校（高橋迅） はい、議長、1番。

○大曲中学校（三浦芽依） はい、議長、2番。

【大曲中学校議員 対面式演壇へ登壇】

○議長（伊藤笑花） それでは、通告の内容について、質問をお願いします。

○大曲中学校（高橋迅） 大曲中学校の高橋迅です。大曲の花火における物品販売を通じた中学生と地域との関わりについて質問します。

大仙市では人口減少と少子高齢化が進む中、どのようにして地域の魅力を次の世代へ伝えていくかが課題となっています。そのような中で「大曲の花火」は全国から多くの方が訪れる、大仙市を代表する行事です。私たちは、この機会を生かし、地域産業の魅力をより多くの人に伝えることができないかと考えました。

そこで私たちは、「大曲の花火」を題材としたグッズ制作に中学生が関わる取り組みを提案します。例えば、花火をモチーフにしたひんやりタオルやうちわなど、夏の花火大会に合ったグッズを、中学生のアイデアを生かしてデザイン・制作することです。これらのグッズは来場者の記念にもなり、「大曲の花火」をより身近に感じてもらうきっかけになると考えます。

【質問者交代】

○大曲中学校（三浦芽依） 大曲中学校の三浦芽依です。質問を続けます。

また、グッズ制作を通して地域の事業者と関わることで、地域産業への理解が深まり、地元に誇りを持つ経験にもつながります。中学生が主体的に関わることで、花火大会が「見る行事」から「関わる行事」へと広がり、次の世代に花火文化をつないでいく力になるのではないのでしょうか。

さらに、制作したグッズを花火大会当日や関連施設などで活用することで、大仙市の魅力を継続的に発信することも可能だと考えます。

このように、「大曲の花火」をきっかけとしたグッズ制作への中学生の参画について、市としてどのような支援が可能か、お考えをお聞かせください。

○議長（伊藤笑花） 質問が終わりました。答弁をお願いします。老松市長さん。

【老松市長 登壇】

○市長（老松博行） 大曲中学校、高橋迅さん、三浦芽依さんの質問にお答えします。

市では、これまで市内商工団体をはじめとする各団体とともに「大曲の花火」のブランド力を生かして地域活性化を目指す「大仙市花火産業構想」に基づく取り組みを進め、高品質小型花火玉を主に製造する花火創造企業の設立や、花火伝統文化継承資料館「はなび・アム」などの拠点施設を整備してきました。

令和6年度からは「日本の花火」の持続的な発展と地域経済の活性化を基本コンセプトに、3年後の2028年の「大曲の花火」第100回記念大会を見据えたグローバルな花火産業基盤の確立に向け、さまざまな取り組みをスタートさせています。

市内の中学生の皆さんには、全国花火競技大会での会場案内などのボランティアスタッフとなる「大曲で最高の花火を見せ隊」への参画をはじめ、大曲中学校生徒会による春の章・秋の章の際のはなび・アムでの「大曲の花火」の歴史や展示物の紹介のほか、市内中学校美術部によるはなび・アム内の階段アートの設置など、花火を支える側に主体的に関わっていただいておりますことに、改めて感謝を申し上げます。

さて、ご提案の「大曲の花火」関連グッズの制作の取り組みについてであります、ブランド力を活用して市の発展を目指すという点で、まさに花火産業構想の考えに合致するものであります。ご提案をしていただいたことをうれしく感じております。

時期や場所、そして手法など、どのような形で実施すれば最も効果を発揮し、持続的な取り組みになるのかなど、さっそくですね、「大曲の花火」を市と一緒に開催しております大曲商工会議所と協議したいと考えております。

市では、生徒や学生の皆さんが、こうした地域の課題解決・活性化を目的に取り組む事例に対しまして、「若者チャレンジ応援事業」という制度を作っております、その中で「学生トライアルチャレンジメニュー」ということで支援を行っております。

皆さんの取り組みが実り、事業化される際には、20万円を上限に支援させていただきますので、ぜひ取り組んでいただきたいというふうに思います。市としてもこうしたチャレンジには、全力で応えてまいりたいと考えております。

花火は、本市の伝統文化の象徴であり、誘客による経済効果が大きく、本市発展の起爆剤となりますが、一方でその取り組みを支える関係者の人材育成が重要であります。花火のまちを盛り上げたいという熱意を持つ皆さんを非常に頼もしく感じますので、今後さまざまな機会を捉えて、花火に携わっていただきたいというふうに思います。

ご提案、本当にありがとうございました。

【老松市長 降壇】

○議長（伊藤笑花） 再質問はありますか。

○大曲中学校（高橋迅） ありません。大曲の花火を見る側から関わる側へ広がる経験を生かし、地域の魅力を発信できる存在になるように頑張ります。ご答弁ありがとうございました。

○議長（伊藤笑花） これにて、大曲中学校、1番、高橋迅さんと、2番、三浦芽依さんの質問を終わります。

【大曲中学校議員 自席へ】

.....
○議長（伊藤笑花） ここで、議事の進行を富岡絢仁さんと交代するため、暫時休憩いたします。

午前10時22分 休 憩

.....

午前10時23分 再開

○議長（富岡絢仁） 休憩前に続き、会議を開きます。

ここからの議事を進行します、中仙中学校の富岡絢仁です。よろしくお願いします。
一般質問を続けます。

次に、大曲西中学校、3番、三浦樹さんと、4番、佐藤ひよりさんをお願いします。

○大曲西中学校（三浦樹） はい、議長、3番。

○大曲西中学校（佐藤ひより） はい、議長、4番。

【大曲西中学校議員 対面式演壇へ登壇】

○議長（富岡絢仁） それでは、通告の内容について質問をお願いします。

○大曲西中学校（三浦樹） 大曲西中学校の三浦樹です。古紙・アルミ缶回収収益を活用した地域イベントの参加促進について、質問します。

私たちは、古紙やアルミ缶の回収には、限りある資源を大切に使う「資源循環」という重要な意味があると考えています。本校では生徒会活動の一つとして回収活動に取り組み、その収益を環境美化や福祉活動に役立てています。また、大仙市でも、リサイクル回収の収益金が、プラスチック資源の分別収集促進や地域環境の保全などに活用されていることを知りました。

そこで私たちは、各学校や大仙市で行っている回収活動をさらに進めることで、市民の皆さんの地域イベントへの参加促進につながるのではないかと考えます。あわせて、私たち中学生が関わることで、若い世代が地域とのつながりを深め、社会に貢献する力を伸ばすことができるのではないかと考え、提案します。

【質問者交代】

○大曲西中学校（佐藤ひより） 大曲西中学校の佐藤ひよりです。質問を続けます。

一つ目は、古紙・アルミ缶回収に協力した家庭や個人に対して、「ポイント」や「参加券」を付与し、商店街フェアや学校祭などの地域イベントで利用できる特典とする仕組みです。これにより、回収活動への協力意欲が高まり、イベントへの参加や地域内の交流がより活発になると考えます。

二つ目は、回収活動や地域イベントの様子を中学生が取材し、撮影や編集を行い、SNSや市の広報で発信する仕組みです。中学生が主体的に広報に関わることで、社会参画への意識が高まるとともに、資源循環やSDGsへの理解も深まると考えます。

これらの取り組みが実現すれば、市民全体の資源循環への意識向上に加え、地域イ

ベントの参加促進や世代間交流にもつながると思います。

以上の提案について、市としてのお考えをお聞かせください。

○議長（富岡絢仁） 質問が終わりました。答弁をお願いします。舛谷副市長さん。

【舛谷副市長 登壇】

○副市長（舛谷祐幸） 大曲西中学校、三浦樹さん、佐藤ひよりさんの質問にお答えします。

中学生の皆さんが各地域で取り組まれている資源物回収は、日常のごみ排出以外でリサイクルを意識する機会であり、ごみの減量化にもつながる取り組みであると感じております。日頃の皆さんの活動に感謝を申し上げます。

ご提案の古紙・アルミ缶回収の収益を活用したポイント等の付与についてであります。現在、市で収集している資源物で、リサイクルによる収益のあるものは、びん・缶、ペットボトル、古紙の4品目であり、市民の皆さんには、資源物の分別排出へのご協力をお願いしております。

この市が行う分別収集は、収集効率の観点から、町内会等の単位で集積所に排出していただいたものを業者が収集しており、世帯ごとに収集を行っておりません。そのため、市の収集でのポイントの付与や参加券を用いた独自のポイント制度の導入には、市民の皆さんの排出方法を含めた地域全体での仕組みづくりが必要であり、現時点では、課題が多いと考えております。

一方、学校が実施する資源物回収の場合は、得られた収益の使い道を学校行事などに柔軟に活用できることから、学校祭や地域イベントなどへの活用も検討できると考えられます。学校が行う回収事業での収益を元に地域イベント等に活用する仕組みを取り入れる際には、市でも、実施主体との調整等を後押しすることで、地域の世代間交流やイベント参加の促進につなげてまいりたいと思います。

二つ目の情報発信の取り組みについてであります。皆さんの回収活動や地域イベントの様子を、市の広報、公式SNS、ホームページ等で紹介し、知っていただくことには、市民の皆さんの資源循環やSDGsの理解を深める上で、意義があるものと感じたところです。

また、これに合わせて、市でも分別の徹底やリサイクルに関する情報提供を行うことで、より効果的に、ごみの減量化や環境意識の向上といった意識啓発につなげることができると考えております。

大曲西中学校をはじめ、各中学校の生徒の皆さんには、引き続き、資源物の回収活動の取り組みをお願いするとともに、情報発信の仕組みづくりについても、市と一緒に取り組んでいただければと思います。ご提案ありがとうございました。以上です。

【舩谷副市長 降壇】

○議長（富岡絢仁） 再質問はありませんか。

○大曲西中学校（三浦樹） ありません。詳しくご説明いただき、ありがとうございました。本校でもよりよい環境づくりを目指して取り組んでいきたいと思っています。

○議長（富岡絢仁） これにて大曲西中学校、3番、三浦樹さんと、4番、佐藤ひよりさんの質問を終わります。

【大曲西中学校議員 自席へ】

○議長（富岡絢仁） 次に、大曲南中学校、5番、菅原丈瑠さんと、6番、最上日咲さんをお願いします。

○大曲南中学校（菅原丈瑠） はい、議長、5番。

○大曲南中学校（最上日咲） はい、議長、6番。

【大曲南中学校議員 対面式演壇へ登壇】

○議長（富岡絢仁） それでは、通告の内容について質問をお願いします。

○大曲南中学校（菅原丈瑠） 大曲南中学校の菅原丈瑠です。中学生屋台を中心とした、市内全域の中学校主催のイベントについて質問します。

現在、大仙市では少子高齢化が進み、経済や観光の面で新たな活力づくりが求められていると思います。大曲の花火大会のような大きな行事に加え、若い世代が関わる新しいイベントを生み出すことが、持続可能なまちづくりにつながるのではないのでしょうか。

そこで私たちは、「中学生屋台」を提案します。「中学生屋台」を中心とした、市内全域の中学校が合同で取り組むイベントを提案します。「中学生屋台」とは、中学生が主体となって企画・運営する、屋外での飲食や物販、体験コーナーなどを行う屋台をイメージしています。市内の中学校が協力し、地域の方々や企業と連携してイベントを開催することで、若い世代の力を地域に生かし、新たなにぎわいを生み出せると考えています。

【質問者交代】

○大曲南中学校（最上日咲） 大曲南中学校の最上日咲です。質問を続けます。

この取り組みには、いくつもの意義があります。まず、学校を越えた交流が生まれ、生徒同士のつながりが深まります。また、地域の方々と一緒に活動することで、コミュニケーション力や協調性を育むことができます。さらに、屋台の企画や運営を自分たちで考え、実践することで、主体性や責任感を身に付ける貴重な学習の機会になります。

本校では昨年度、卒業生が地元企業と連携し、商品の企画・販売を行いました。この経験から、地域企業と関わる実践的な活動には大きな教育効果があると感じています。こうした取り組みを市内全体に広げることで、学校と地域、企業が互いに支え合う関係を築くことができると考えます。

「中学生屋台」を通して地域の魅力を発信できれば、市民だけではなく市外からの来場者も期待できます。

以上の点を踏まえ、市内中学校合同による地域連携イベントの実施について、市としてのお考えをお聞かせください。

○議長（富岡絢仁） 質問が終わりました。答弁をお願いします。伊藤教育長さん。

【伊藤教育長 登壇】

○教育長（伊藤雅巳） 大曲南中学校、菅原丈瑠さん、最上日咲さんの質問にお答えします。

今回ご提案いただいた市内の中学校が合同でイベントを開催するというアイデアは、地域活性化やにぎわいの創出につながる、素晴らしい発想と感じております。若い世代の皆さんが主体的に地域と関わり、地域の方々や企業と連携しながら活動することは、皆さんにとっても、地域にとっても大きな意義があります。

一方、開催に当たっては、いくつかの課題も想定されます。

例えば、広い会場や移動手段の検討、屋台の運営に必要な物品や予算の確保、各学校や関係機関との日程調整等が必要になります。

また、屋外で開催する場合は、悪天候への対応も検討しなければなりません。

そこで、こうしたアイデアを実現するために、無理なく実施できる方法を模索することが必要です。

まずは、自校の学校祭や地域のイベントで実践することから始めてみるのはいかがでしょうか。その際、先ほど紹介いただいた地元企業との連携はもとより、園や小学校も含めた地域のさまざまな団体とどのように協力し合えるかなど、地域のつながりづくり

も大切な視点と考えます。こうした各校の実践内容や成果と課題を「中学生サミット」などの場で共有することにより、次の取り組みにつながる道筋が見えてくると思います。

教育委員会といたしましては、皆さんの「地域を元気にしたい」という思いを後押ししてまいります。中学生の皆さんが意欲と創意工夫を大切にしながら、さまざまなことにチャレンジしてくださることを期待しております。

以上です。

【伊藤教育長 降壇】

○議長（富岡絢仁） 再質問はありませんか。

○大曲南中学校（菅原丈瑠） ありません。丁寧なご答弁ありがとうございました。

○議長（富岡絢仁） これにて大曲南中学校、5番、菅原丈瑠さんと、6番、最上日咲さんの質問を終わります。

【大曲南中学校議員 自席へ】

○議長（富岡絢仁） 次に平和中学校、7番、今野駈さんと、8番、小林愛奈さんにお願
いします。

○平和中学校（今野駈） はい、議長、7番。

○平和中学校（小林愛奈） はい、議長、8番。

【平和中学校議員 対面式演壇へ登壇】

○議長（富岡絢仁） それでは、通告の内容について質問をお願いします。

○平和中学校（今野駈） 平和中学校の今野駈です。

神岡地域の民話や伝承を継承するための「ふるさと学習」について質問します。

私たちは、神岡地域に残る民話や伝承が、十分に語り継がれなくなっていることに強い危機感を覚えています。

神岡地域は、日本各地に伝わる巨人伝説「おいだらぼっち」と深い縁のある場所です。おいだらぼっちは、山や湖沼を造ったとされる巨人で、国づくりの神様への信仰や、鬼や大男といった妖怪伝承がもとになったともいわれています。

神岡で育った私たち中学生は、保育園の頃に紙芝居などでこの民話を聞いた記憶があります。しかし、小学生や中学生になってから、改めて学ぶ機会はほとんどありません。このままでは、地域に残る貴重な伝承が、私たちの世代で途絶えてしまうのではないかと残念に思っています。

そこで私たちは、神岡地域の民話や伝承を将来に残していくために、市の関連施設にPRコーナーを設置していただくことを提案します。

嶽友館や道の駅かみおか、神岡図書館など、私たちにとって身近な場所に設置することで、地元の方の目に留まりやすくなると考えます。また、観光などで立ち寄った市外の方にも、神岡地域の伝承を知ってもらうきっかけになると思います。

このような取り組みは、私たち中学生自身が「ふるさと神岡」について改めて学び、地域への愛着を深めることにもつながります。

よさこいや太鼓、嶽山登山、大浦沼の自然、八幡神社などとともに、神岡地域の伝承がこれからも大切に受け継がれていくことを願っています。

この提案について、市としてのお考えをお聞かせください。

○議長（富岡絢仁） 質問が終わりました。答弁をお願いします。伊藤教育長さん。

【伊藤教育長 登壇】

○教育長（伊藤雅巳） 平和中学校、今野駈さん、小林愛奈さんの質問にお答えいたします。

神岡に伝わる「おいだらぼっち」をはじめ、各地域に伝わる民話や伝承は、人々の思いが込められた大切な文化であり、次世代へ継承していくべき地域の貴重な財産であると認識しております。

教育委員会では、こども園、小学校、中学校、地域が連携した活動「大仙教育メソッド」を推進しており、「地域文化の継承」を大きな柱の一つとしている地域もあります。中学生の皆さんが自分たちの地域の文化に目を向け、未来に伝えようとする姿勢を大変頼もしく思っております。

ご提案の嶽友館や道の駅かみおか、神岡図書館など、市の関連施設に民話や伝承をPRするコーナーを設けるというアイデアは、地域の皆さまや他地域から訪れる方々に神岡の歴史や文化を知っていただく上で、大変有意義な取り組みであると捉えております。

平和中学校の皆さんには、ふるさと神岡について学んだことを、ポスターやリーフレット等にまとめ、広く情報発信していただけたらうれしく思います。その際、教育委員会に連絡いただければ、市の関係施設等に、皆さんの学習成果を展示できるよう調整してまいります。

教育委員会といたしましては、地域文化の継承のために、大仙市の子どもたちがふるさとについての理解を深め、地域の魅力を発信していけるよう、引き続き小・中学生

の学びや活動を支援してまいります。

【伊藤教育長 降壇】

○議長（富岡絢仁） 再質問はありませんか。

○平和中学校（小林愛奈） はい、議長。

○議長（富岡絢仁） 小林さん、再質問をお願いします。

○平和中学校（小林愛奈） 平和中学校の小林愛奈です。再質問をします。

中学生が学んだ内容を生かし、保育園や小学校へ出向いて伝える「出前授業」を行うことについて、市としての考えや支援、アドバイスをお聞かせください。

○議長（富岡絢仁） 再質問に対する答弁をお願いします。伊藤教育長さん。

○教育長（伊藤雅己） 今野駈さん、小林愛奈さんの再質問にお答えします。

皆さんが調べた地域の民話や伝承を、こども園や小学校の子どもたちに伝える「出前授業」は、非常に意義深く、こども園、小学校、中学校の連携をさらに深める観点からも、素晴らしいアイデアと受け止めております。

このような活動は、園児や児童にとって身近な先輩から学ぶ貴重な機会になるとともに、ふるさとを大切にすることを育むことにもつながります。

市内のある地域では、地域の方々と連携したふるさと学習に取り組んでおります。その活動の中では、昔話の紙芝居制作、演劇発表など、ふるさとを題材とした学習の充実に加え、中学生が小学校を訪問し、読み聞かせに取り組んでいると伺っております。こうした他校の取り組みを参考にしながら、平和中学校の活動を充実させてほしいと思います。

教育委員会といたしましては、引き続き学校と地域が連携した活動を支援してまいります。ありがとうございました。

○議長（富岡絢仁） 再々質問はありませんか。

○平和中学校（今野駈） ありません。ご丁寧に説明していただきありがとうございました。

○議長（富岡絢仁） これにて、平和中学校、7番、今野駈さんと、8番、小林愛奈さんの質問を終わります。

【平和中学校議員 自席へ】

○議長（富岡絢仁） 一般質問の途中ですが、暫時、休憩いたします。

再開時刻は、午前10時50分といたします。

午前10時40分 休 憩

午前10時50分 再 開

○副議長（小松依史） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

議長に代わり議事を進行します、副議長の仙北中学校、小松依史です。

○副議長（佐々木咲来） 同じく、佐々木咲来です。

○副議長（小松依史） よろしく願いいたします。

○副議長（小松依史） 一般質問を続けます。

次に、西仙北中学校、9番、高根宗親さんと、10番、菅原綾乃さんをお願いします。

○西仙北中学校（高根宗親） はい、議長、9番。

○西仙北中学校（菅原綾乃） はい、議長、10番。

【西仙北中学校議員 対面式演壇に登壇】

○副議長（小松依史） それでは、通告の内容について質問をお願いします。

○西仙北中学校（高根宗親） 西仙北中学校の高根宗親です。

「大綱米プロジェクト」を通じた地域活性化について質問します。

毎年2月10日に行われる「刈和野の大綱引き」は、国指定重要無形文化財であり、私たちの地域が誇る大切な伝統行事です。

本校では、地域の活性化を目的として発足した「大綱米プロジェクト」に、毎年3年生が参加しています。こども園から高校までの幅広い世代が協力し、田植えや稲刈りなどの農作業を行うこの取り組みは、農業と伝統行事を結び付けた貴重な活動だと感じています。

私たちは、このプロジェクトを通して、地域をさらに元気にしていくためには、まず多くの人に「刈和野の大綱引き」やその背景にある「大綱米プロジェクト」を知ってもらうことが大切だと考えました。

昨年、大綱引きに魅了され、秋田県に移住してきた方のお話を聞き、「知ること」が人の心を動かし、行動につながる力になると実感しました。

【質問者交代】

○西仙北中学校（菅原綾乃） 西仙北中学校の菅原綾乃です。質問を続けます。

そこで、作業の様子だけでなく、大綱米が育ち、収穫され、綱よいを経て大綱になる

までの過程や、そこに込められた歴史や文化を、継続的に発信していくことを提案します。こうした発信により、農業や大綱引きに関心を持つ人が増え、参加への第一歩につながると考えます。

また、市内の学校や地域の方々、さらには他地域に住むの方々にも参加を呼びかけることで、学びと感動を共有できる機会が広がり、地域の活性化につながるのではないのでしょうか。

多くの方に関心を持ってもらうため、市のSNSなどを活用した情報発信について、市としてどのような協力が可能か、お考えをお聞かせください。

○副議長（小松依史） 質問が終わりました。答弁をお願いします。老松市長さん。

【老松市長 登壇】

○市長（老松博行） 西仙北中学校、高根宗親さん、菅原綾乃さんの質問にお答えいたします。

質問の、大綱米プロジェクトを通じた地域活性化についてであります。少子高齢化などが影響し、国指定重要無形民俗文化財「刈和野の大綱引き」の保存継承が心配される中、市では、令和3年度より「大綱米プロジェクト」を実施しております。

この取り組みは、稲作を通じ、大綱の原材料として必要な稲わらの確保に加え、体験活動を通じた伝統文化の継承、後継者の育成を目的としております。

毎年、西仙あおぞらこども園、みつば保育園、西仙北小学校、西仙北中学校、西仙北高校、刈和野大綱引保存会等の皆さんなど、地域総ぐるみで実施しております。

西仙北中学校生徒の皆さんからのご協力に対しまして、改めて感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

このほか、ふるさと教育の一環といたしまして、地域の園児、小・中学生、高校生を対象とした「大綱引きに関する講話」や、稲わらから大綱が完成するまでの作業体験などを行うことで、「刈和野の大綱引き」の保存継承と、地域活性化につなげております。

こうした取り組みにつきましては、市広報紙「だいせん日和」やホームページ、SNS等に加え、「支所だより」、「コミュニティ・スクールだより」の配布や、報道機関等を通じた情報発信をしております。

中でも、SNSの活用につきましては、令和2年度から「だいせん宣伝部」Instagramを開設し、広く市民の皆さまや大仙市のファンの皆さまが宣伝部員となり市の魅力を発信していただいております。

今後は、宣伝部以外の市民の皆さまや企業などからも発信していただけるよう後押ししてまいります。各中学校におきましては、学校からのお便りやホームページを活用して、地域行事等を積極的に発信していただけたら大変うれしく思います。

市といたしましては、「刈和野の大綱引き」の保存継承と地域活性化を図るため、「大綱米プロジェクト」のさらなる充実と周知について、地域の皆さまと一緒に考えながら具体化してまいりたいと思っておりますので、引き続きご協力をお願い申し上げます。

【老松市長 降壇】

○副議長（小松依史） 再質問はありませんか。

○西仙北中学校（高根宗親） ありません。丁寧にお答えいただきありがとうございました。私たちも大仙市の一員として、できることを考えていきたいと思っております。

○副議長（小松依史） これにて、西仙北中学校、9番、高根宗親さんと、10番、菅原綾乃さんの質問を終わります。

【西仙北中学校議員 自席へ】

○副議長（小松依史） 次に、協和中学校、13番、進藤嘉人さんと、14番、加藤大志さんをお願いします。

○協和中学校（進藤嘉人） はい、議長、13番。

○協和中学校（加藤大志） はい、議長、14番。

【協和中学校議員 対面式演壇へ登壇】

○副議長（小松依史） それでは、通告の内容について質問をお願いします。

○協和中学校（進藤嘉人） 協和中学校の進藤嘉人です。

「ちいきみんなのきょうわ祭」の連携強化について質問します。

協和地域は、かつて鉾山の町として発展し、農業や商店街も活気にあふれていました。しかし、現在は人口減少が進み、地域のにぎわいや人と人とのつながりが薄れつつあります。このような中で、地域の魅力を改めて見つめ直し、次の世代につないでいく取り組みが必要だと感じています。

協和中学校では、「愛される学校」を目指し、昨年度から学校祭を協和公民館「和ピア」で開催し、「ちいきみんなのきょうわ祭」と連携した取り組みを行ってきました。この祭りは、地域の方々が集まり、交流を深める大切な機会となっています。さらに魅

力ある祭りにしていくためには、地域の力を生かした連携が重要だと考えます。

そこで私たちは、協和公民館を中心としたこの祭りに、地域の商工会関係者の皆さんと連携し、地元の産品やお店の魅力を発信する取り組みを進めていくことを提案します。

地域のことをよく知る商工会の方々と一緒に取り組むことで、協和ならではの魅力を来場者に伝えることができるのではないのでしょうか。

【質問者交代】

○協和中学校（加藤大志） 協和中学校の加藤大志です。質問を続けます。

また、市内だけではなく、市外からの来場者にも協和地域の魅力を知ってもらうためには、情報発信やPRの工夫も必要です。中学生が地域の大人と関わりながら祭りづくりに参加することは、地域理解やキャリア教育の面でも大きな学びにつながると考えます。

こうした連携を進めていくことや、協和地域の魅力を発信していくことについて、市としてどのような支援や後押しができるのか、お考えをお聞かせください。

○副議長（小松依史） 質問が終わりました。答弁を求めます。伊藤教育長さん。

【伊藤教育長 登壇】

○教育長（伊藤雅己） 協和中学校、進藤嘉人さん、加藤大志さんの質問にお答えします。

質問の「ちいきみんなのきょうわ祭」の連携強化についてであります。人口減少や少子高齢化の進行に伴い、地域の活力を維持することが難しい状況となっております。

こうした中、協和地域では令和6年度より、地域住民と若い世代が交流し、地域の魅力を再発見していただくことを目的に、協和公民館が主催する「きょうわ祭」と、協和小学校の学習発表会、そして協和中学校の学校祭を「ちいきみんなのきょうわ祭」として合同で開催しております。

開催に当たり、大仙市商工会、大仙市観光物産協会をはじめ、各関係機関からのご協力に加え、協和支所主催の「アウトドア&キッチンカーフェス in 和ピア」を同時開催することで、にぎわいづくりを図っております。

ご提案のとおり、きょうわ祭をはじめとする各種イベントにおいて、さまざまな関係者との連携に加え、地元産品のさらなるPRや、若者の参画を促すことにより、地域の魅力発信や交流人口の増加につながるものと感じております。

現在、市ではこうした地域の魅力について、市広報紙やホームページのほか、公式の

LINE、インスタグラム等を活用し、情報発信しております。今後、市民による主体的な発信も視野に、より効果的な情報発信の方法について、地域の皆さまの意見も取り入れながら検討してまいります。

中学生の皆さんが地域の大人と関わり、企画や運営に参画することは、地域への理解や愛着を深めるとともに、キャリア教育の視点からも有意義であると捉えております。発想力豊かな若い方々のアイデアを生かした取り組みは地域を元気にしてくれます。市といたしましても必要な支援体制を整えてまいりますので、引き続き、皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

以上です。

【伊藤教育長 降壇】

○副議長（小松依史） 再質問はありませんか。

○協和中学校（進藤嘉人） ありません。貴重なご答弁ありがとうございました。協中学生として地域との連携を深め、協和の魅力を市外にも伝えられるように取り組んでいきます。

○副議長（小松依史） これにて、協和中学校、13番、進藤嘉人さんと、14番、加藤大志さんの質問を終わります。

【協和中学校議員 自席へ】

○副議長（小松依史） 次に、南外中学校、15番、加賀一花さんと、16番、佐々木華穂さんをお願いします。

○南外中学校（加賀一花） はい、議長、15番。

○南外中学校（佐々木華穂） はい、議長、16番。

【南外中学校議員 対面式演壇へ登壇】

○副議長（小松依史） それでは、通告の内容について質問をお願いします。

○南外中学校（加賀一花） 南外中学校の加賀一花です。誰もが安心して生活するための情報発信について質問します。

大仙市では、地域に暮らす人々が安心して生活できるよう、情報発信の仕組みづくりがますます重要になってきていると感じます。

広い地域に住む方々や高齢者の多い地域では、緊急時や災害時に迅速な情報共有ができる体制が整っていることが、安心につながります。特に、クマの出没や事故など、安

全に関わる情報は、できるだけ早く確実に伝わることが求められます。

現在は公用車による巡回アナウンスなども行われていますが、さらにスピード感を持って情報を伝えるためには、一斉放送やネットワークを活用した仕組みが効果的だと考えます。

【質問者交代】

○南外中学校（佐々木華穂） 南外中学校の佐々木華穂です。質問を続けます。

また、情報発信は防災だけではなく、地域の暮らしを支える取り組みにもつながります。イベントや学校行事の告知を積極的に行うことで地域内の交流が深まり、子育て世代や高齢者も参加しやすい環境が整います。最近ではDX化も進んでいますが、インターネットやスマートフォンが利用できない方々もいるため、音声案内や簡単な操作で情報を受け取れる工夫が必要です。

このような情報発信の仕組みが整えば、誰もが安心して暮らせる地域づくりに大きく貢献できると考えます。

私たち南外地域でも、広い地域に暮らす住民が多く、迅速に情報が届く体制があると安心感につながると感じています。

そこでお伺いしますが、大仙市として、高齢化が進む地域における情報発信やDX化の取り組みについて、現在どのように進めているのか、また今後の計画についてお聞かせいただけますか。

○副議長（小松依史） 質問が終わりました。答弁を求めます。今野副市長さん。

【今野副市長 登壇】

○副市長（今野功成） 南外中学校、加賀一花さん、佐々木華穂さんの質問にお答えします。

まず、皆さんの質問にありました「スマートフォンなどを使えない方も情報を受け取れる工夫」や「世代間の交流を深める地域情報の発信」という視点やアイデアは、広い視野で地域課題の本質をしっかりと捉えたものであると感じております。

市では、市民の皆さんに情報を発信する場合は、情報が「正しく」「分かりやすく」、そして速やかに伝わることを重要であると考えており、そのためにデジタルとアナログの両面から取り組みを行っております。

情報の発信方法についてですが、市では単一の手段に依存することなく、公式LINE、市ホームページ、コミュニティFMなど、複数の伝達手段を組み合わせ日常的な情

報発信に努めているところです。このほか、高齢者や障がいのある方など、自ら情報を収集することが難しい方には、民生委員や町内会などの日頃の見守りや訪問を通じて必要な情報をお伝えし、いざというときのための情報伝達の関係性を構築しているところです。

市が今年度実施した「市民による市政評価」の個別事業に対する市民アンケートによって、緊急時の避難情報や災害情報の主な入手先を伺ったところ、多い順に1番目は「テレビ」、2番目は「家族や親族からの連絡」、3番目は「公式LINE」となっており、人づての連絡などにより入手している方が多いということが分かりました。

市といたしましては、いざというときに、市ホームページや公式LINEなどに加え、テレビや防災メール、広報車などを活用し、ツールを増やして発信をしており、情報が確実に届けられるよう今後も努めてまいります。

また、市民の皆さんにおいては、一人一人が自らの情報収集手段を確保しておくなどの危機意識の向上を図っていただけるよう啓発活動を強化していきたいと考えています。

現在策定を進めている「行政サービス改革・DX推進大綱」の中では、「情報の伝わりやすさ」「発信力の強化」をテーマの一つとしており、デジタルによる情報発信を強化することとしていますが、このデジタルが果たす部分と地域の皆さんに担っていただくアナログの部分を効果的に組み合わせることで、より実効性のある取り組みとしてまいります。

市では、地域の一員である皆さんをはじめ、地域の方々とともに、誰もが安心できる情報伝達の強化に取り組んでいきたいと思っておりますので、ぜひ、中学生の皆さんのお力をお借りしたいと考えております。ご質問ありがとうございました。

【今野副市長 降壇】

○副議長（小松依史） 再質問はありませんか。

○南外中学校（加賀一花） ありません。丁寧なご答弁ありがとうございました。

○副議長（小松依史） これにて南外中学校、15番、加賀一花さんと、16番、佐々木華穂さんの質問を終わります。

【南外中学校議員 自席へ】

○副議長（小松依史） ここで、議事の進行を、佐々木咲来さんと交代するため、暫時、休憩いたします。

午前11時15分 休 憩

.....
午前11時16分 再開

○副議長（佐々木咲来） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

ここからの議事を進行します、仙北中学校の佐々木咲来です。よろしくをお願いします。
.....

○副議長（佐々木咲来） 一般質問を続けます。

次に、太田中学校、19番、上園彬丸さんと、20番、藤峰咲耶さんをお願いします。

○太田中学校（上園彬丸） はい、議長、19番。

○太田中学校（藤峰咲耶） はい、議長、20番。

【太田中学校議員 対面式演壇へ登壇】

○副議長（佐々木咲来） それでは、通告の内容について質問をお願いします。

○太田中学校（上園彬丸） 太田中学校の上園彬丸です。

地域の大切な資源である「大仙市の温泉」を活かした観光誘致について質問します。

私たちは、地域の大切な資源である「大仙市の温泉」を、もっと多くの人に知ってもらい、未来へつないでいきたいと考えています。

そこで、太田中学校の全校生徒を対象に、地元の温泉施設「中里温泉」についてアンケートを行いました。その結果、74パーセントの生徒が「行ったことがある、または興味がある」と答え、今年度リニューアルした中里温泉をすでに利用した生徒も多かったです。中には、「外部に発信したい魅力がある」と感じた生徒もおり、温泉が身近な存在であることが分かりました。

温泉には、人を癒やし、地域を元気にする力があります。この魅力を生かし、観光誘致につなげるため、私たちは三つの提案をします。

【質問者交代】

○太田中学校（藤峰咲耶） 太田中学校の藤峰咲耶です。質問を続けます。

一つ目は、中学生と地元商店が協力して開発した商品を、温泉施設で販売する取り組みです。本校では、地元のヴァンヴェールさんとコラボして「モニカパン」の販売につなげています。このような商品には話題性があり、若い世代が温泉を訪れるきっかけになると考えます。

二つ目は、中学生がデザインした温泉PRキャラクターを使った「温泉スタンプラリーカード」の作成です。市直営の中里温泉、柵の湯、八乙女温泉の三施設で共通して

導入することで、温泉巡りの楽しさを伝え、施設同士のつながりも生まれると思います。

三つ目は、自然体験と温泉を組み合わせた体験型観光です。真木真昼県立自然公園でのイベントと温泉をセットにすることで、滞在時間を延ばし、地域の魅力をより深く知ってもらえると考えます。

このように、中学生が主体となって温泉を盛り上げる取り組みは、若い世代の利用促進や温泉の認知度向上につながると思います。大仙市の大切な温泉資源を未来へつなぐため、本提案について市としてのお考えをお聞かせください。

○副議長（佐々木咲来） 質問が終わりました。答弁を求めます。老松市長さん。

【老松市長 登壇】

○市長（老松博行） 上園彬丸さん、藤峰咲耶さんの質問にお答えします。

質問の「大仙市の温泉」を活かした観光誘致についてであります。はじめに、皆さんが地元パン製造業者さんと共同開発した「モニカパン」を市温泉施設で販売する取り組みにつきましては、もちろん実現可能であると思っております。

ご提案のとおり、話題性があり、若い世代の皆さんが温泉を訪れるきっかけづくりや、太田地域の魅力を知っていただく機会にもなることから、とても良いアイデアだと感じたところであります。

まずは、皆さんの地元の中里温泉から取り扱いを検討したいと考えていますが、太田中学校と製造業者さんの協力が必要となりますので、後ほど、より具体的なお提案をいただきたいというふうに思います。

次に、中学生がデザインした温泉PRキャラクターを使った「温泉スタンプラリーカード」の作成についてであります。温泉巡りの楽しさを伝え、温泉施設の連携を生み、誘客促進につながる取り組みであることから、導入を前向きに検討していきたいと考えております。

その導入に当たりましては、中学生の皆さんからの「温泉PRキャラクターの発案」が必要となりますので、今後、教育委員会を通じましてご提案いただきたいと思っております。

また、導入後には、取り組みのPRも必要となりますので、太田中学校の皆さんだけでなく、他の地域の中学校の皆さんからも温泉施設をたくさん利用していただき、一人一人が「温泉PR大使」になったつもりで、温泉施設を大いに宣伝していただきたいというふうに思います。

次に、自然体験と温泉を組み合わせた体験型観光についてであります。とても良い

着想であると受け止めております。

自然体験と温泉の組み合わせは相性が良く、これまでも真木真昼県立自然公園と温泉をセットにしたプランを太田地域の温泉施設が取り組んでおり、こうした取り組みを充実していくことは、誘客促進と滞在時間の延長、地域の魅力のPR、観光消費の拡大などの効果が期待できるものと思っております。

具体的な企画につきましては、同公園で開催する観光登山やスポーツ・アウトドアイベントと、温泉の魅力を組み合わせた体験型コンテンツなどが良いのではないかとイメージしておりますが、まずは、ターゲットの設定やニーズ、課題の把握などが必要となりますので、それらを研究しながら、今後の観光施策にご提案の趣旨を取り入れていきたいと思っております。

ご質問ありがとうございました。

【老松市長 降壇】

○副議長（佐々木咲来） 再質問はありませんか。

○太田中学校（上園彬丸） ありません。丁寧にお答えいただきありがとうございました。

大仙市の中学生として、今後も市政について考え、学び続けていきたいと思えます。

○副議長（佐々木咲来） これにて、太田中学校、19番、上園彬丸さんと、20番、藤峰咲耶さんの質問を終わります。

【太田中学校議員 自席へ】

○副議長（佐々木咲来） 次に、中仙中学校、11番、伊藤笑花さんと、12番、富岡絢仁さんをお願いします。

○中仙中学校（伊藤笑花） はい、議長、11番。

○中仙中学校（富岡絢仁） はい、議長、12番。

【中仙中学校議員 対面式演壇へ登壇】

○副議長（佐々木咲来） それでは、通告の内容について質問をお願いします。

○中仙中学校（伊藤笑花） 中仙中学校の伊藤笑花です。「コスモスで地域を活性^か華」について質問します。

大仙市では、年々少子高齢化が進んでおり、深刻な問題になっています。地域全体で、大仙市を後世まで維持していかなければならないという危機感を持たなければならぬと考えます。

そこで私たちが地域を少しでも活性化するために提案したいのは、「コスモスで地域を活性華」です。

【質問者交代】

○中仙中学校（富岡絢仁） 中仙中学校の富岡絢仁です。質問を続けます。

私たちの学校では、学校で育てたコスモスを使って、ハーバリウム作り体験を学校祭で行っています。学校祭で行うため、生徒だけではなく、地域の方々にも大変好評で、学校祭の目玉イベントでもあります。

また、地域の祭りでコスモスの種を配りました。コスモスについて聞かれることもあり、コスモスの知名度が広がるとともに、コミュニケーションで笑顔の輪を広げることができました。

大仙市の花であるコスモス栽培は市内全域でも行っています。今ある活動をさらに広げたら大仙市も活性化するのではないかと考えます。大仙市の観光資源や農産物の流通、消費拡大を広げるため、コスモスは私たちのまちを救う救世主かもしれません。コスモスを栽培する方々と学校が連携しながら、市内の全域でコスモスの栽培を促進していくのはどうでしょうか。

秋には、コスモスの美しい風景が広がり、これも観光名所になるかもしれません。

まさに「大仙市の花」であるコスモスを生かしたまちづくりはどうでしょうか。このアイデアに対する、市としての考えを聞かせてください。

○副議長（佐々木咲来） 質問が終わりました。答弁を求めます。今野副市長さん。

【今野副市長 登壇】

○副市長（今野功成） 中仙中学校、伊藤笑花さん、富岡絢仁さんの質問にお答えします。

質問の「コスモスで地域を活性華」についてであります。市の花であるコスモスは、大仙市誕生一周年の記念にあわせて、ケヤキやカワセミとともに市民の皆さんからの公募で選定されました。きれいに整列している8枚の花びらは、8市町村が合併して誕生した大仙市を象徴するもので、愛らしい見た目とは裏腹に生命力に満ちあふれ、将来にわたって力強く羽ばたくまちにふさわしいという理由で選ばれたものです。

こうした思いが込められたコスモスについては、市の公式キャラクターである「まるびちゃん」のマフラーやマンホールのデザインに採用しているほか、大仙市の秋の景色としてSNSで発信するなど、さまざまな場面でPRに努めています。また、中学生議会での提案をきっかけに、大仙市緑化推進委員会が主体となり、小・中学校や公共施設、

介護施設などにコスモスのプランターを配布する「市の花コスモス普及促進事業」を実施しています。

このほか、市民の皆さんの活動として、国の事業を活用し、五つの活動組織において、花壇や休耕田を活用したコスモスの植栽が行われており、特に南外地域の組織では、国道105号線の約1.3キロにわたって植えられ、道行く人たちの目を楽しませていただいています。

さらに、皆さんの中仙中学校で受け継がれてきた「秋桜プロジェクト」は、コスモスを懸け橋に学校と地域が連携し、地域全体に笑顔と元気をお届けする素晴らしい取り組みであると思っています。

今回のご提案は、中仙中学校の取り組みを市全域に展開し、コスモスの栽培を促進することで、大仙市の活性化につなげようとするものでありますが、市内のあちらこちらでコスモスが咲き誇り、豊かな自然に溶け込んだ秋の原風景として多くの人々を魅了し、癒しと安らぎをもたらしている場面を思い浮かべながら、興味深く聴かせていただきました。

市としましても、大仙市緑化推進委員会と協力しながら、引き続き普及促進事業を展開するとともに、他の中学校に皆さんの取り組みを広く紹介するなど、より多くの場所で市の花であるコスモスを植えていただけるよう、積極的に取り組んでまいりたいと考えています。

中仙中学校の皆さんにおかれましても、学校通信や学校のホームページ、中学生サミットなどを通じて、他の中学校や地域の皆さんに広く取り組みを発信していただくとともに、地域の皆さんとの交流を深めながら、中学生ならではの柔軟な発想で「秋桜プロジェクト」をさらに前進させていただき、コスモスの輪がより大きく広がるよう、今後ご協力をお願いいたします。

【今野副市長 降壇】

○副議長（佐々木咲来） 再質問はありませんか。

○中仙中学校（伊藤笑花） ありません。分かりやすいご答弁をありがとうございました。

○副議長（佐々木咲来） これにて、中仙中学校、11番、伊藤笑花さんと、12番富岡絢仁さんの質問を終わります。

【中仙中学校議員 自席へ】

○副議長（佐々木咲来） 以上で、本中学生議会の日程はすべて終了しました。これにて、令和8年大仙市中学生議会を閉会いたします。

お疲れさまでした。

午前11時40分 閉 会

この会議録の内容に間違いがないことを確認し署名します。

令和 8 年 3 月 13 日

大仙市中学生議会議長 伊藤 笑花

議長 富岡 絢仁

議員 三浦 樹

議員 進藤 嘉人

議員 上園 彬丸

中学生議会 フォトギャラリー







閉 会 式

振り返り

南外中学校 加賀^{いちか}一花さん

皆さん、本日はお忙しい中、私たち中学生の声に耳を傾けていただき本当にありがとうございました。

今回の中学生議会では、各校が地域への思いを込めた多様な提案を行いました。

例えば、スポーツ施設の利便性向上や、高齢者も楽しめるイベントの提案花火大会での中学生の関わりや、スポーツ資源回収と地域参加を結び付ける工夫、さらに、中学生屋台や庭の継承地域のお祭りとも連携し、地域に住む人々への情報発信など、どれも実際に地域に根差したアイデアばかりでした。

また、温泉やコスモス、大綱引きなど、大仙市ならではの資源を生かし、観光や交流、そして未来のまち作りにつなげようという思いを持っていました。

私たち中学生は、日々の学びや地域との関わりを通して社会に貢献したいという強い思いを持っています。この中学生議会での提案が地域の皆様と私達の新たな一歩につながることを願っています。

これからも大仙市がよりよいまちとなるよう、私達中学生一人一人ができることを考え行動していきます。本日は本当にありがとうございました。



記念品贈呈

【代表受領】

大曲南中学校 最上^{ひさき}白咲さん

後藤議長から、頑張った中学生議員の皆さんへ記念品が手渡されました。



中学生議員代表 お礼のことば 大曲南中学校 菅原^{たけ}文^る瑠さん

この度は、中学生議会という貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。

日頃の学校生活では得られない貴重な経験となりました。

実際に市長をはじめ、市政に関わる皆さまに直接私達の考えをお伝えすることで、私達も一人の市民であるという自覚を新たに持つことができました。

質問を考える過程では、多くの発見があり、大変有意義な時間を過ごすことができました。

また、一つ一つの質問に丁寧にお答えいただき、心より感謝申し上げます。

今回の経験を通して学んだこと、気付いたことをこれからの学校生活にしっかりと生かしたいと思います。

本日は本当にありがとうございました。



伊藤^{まさ}雅^み巳 大仙市教育長 あいさつ



まず、中学生の皆さん、大変お疲れさまでした。どうですか、終わってみて。少し顔が緩みましたけれども。

まず、この日のために質問原稿の作成から質問の仕方、プレゼンの練習など万全の準備をしてきたことと思いますが、実際にこの議場という特別な場、しかも、後ろ（傍聴席）見ました？こんなにたくさんの方々に囲まれた中での時間はどうだったでしょうか。おそらく体験したものでなければ分からない緊張感、そして今終えた後の成就感が得られたのではないのでしょうか。

今日の皆さんの姿、背筋がピンと伸びた姿ですとか、まっすぐ見据えた視線を強く感じました。一つ一つの言葉を力強く、丁寧に語る姿。あるいは資料を示しながら熱く訴える姿などなど、皆さんの姿には圧倒されておりました。

本日、皆さんの質問から特に感じたことをあえて三つ挙げますと、一番強く感じたのは全ての皆さん、学校、質問、

これら全てが「ふるさと大仙」への熱い思いでいっぱいであったということです。質問の文書の中身だけではなく、この緊張感の中で堂々と語れる、手元の原稿をほとんど見ないで自分の言葉でちゃんと伝えようとしている。声の抑揚だとか、間の取り方だとか、とにかく姿勢、表情、立ち振る舞いの全てから「ふるさと大仙」への思いを強く感じたところです。ありがとうございました。

2点目は質問の内容については、市の計画や現状を把握して、あわせて自分たちの実践を踏まえた提案型の質問が多く、もっと自分たちにできることはないか、地域の方々と一緒に頑張っていきたい、というひたむきさが伝わってきました。

3点目ですけれども、各学校がSDGsや地域活性化の視点から生徒会活動を見直し、実践してきたことと思います。そしてその内容を地域全体に広げていこうという活動もしてきたことと思います。その確かな積み重ねがあって、質問内容には厚みや深みといったものが感じられました。

他にもいろいろありますけれども、今日という日が迎えられるのも、日頃の学校での学習はもとより、今年度の中学生サミットは残念ながら一堂に会することはできませんでしたが、この脈々と続く中学生サミットの確かな伝統と成果ではないかとも感じています。

この議場という特別な場で堂々と表明する皆さんの姿は本当にたくましく、まぶしく感じられ、私自身ここにいて身が引き締まる思いです。本当にありがとうございました。

結びに、本日の開催のためにご尽力いただいた各学校の生徒の皆さんや先生方をはじめとするすべての関係の皆さまに厚く感謝申し上げます。あわせて、生徒の皆さんが行政や議会の一端に触れた今回の経験を忘れずにこれからも社会に主体的に関わり、ふるさと大仙の大きな力となって活躍してくださることを期待しております。

本日は大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

大仙市議会議員と地元中学生代表との懇談会

テーマ：大仙市の未来

懇談会は、主に議員が中学生に対して質問をする形となりました。同類の回答を引き出した質問が多かったため、以下にまとめた形として掲載いたします。

議員からの質問

Q. この街に「あったらいいな」と思うものは何ですか？

Q. 大仙市に対する要望を教えてください。

Q. 具体的に「ここにこんな施設がほしい」という場所やアイデアはありますか？

Q. 大仙市にはどんな場所があればいいと思いますか？自分だけではなく、家族の意見などもあれば教えてください。

Q. 今の生活の中でここがよくなるというところはどこですか？

Q. 皆さんが思う「暮らしやすい街」とは、どのような街ですか？

Q. 議員にしてほしいことはありますか？

Q. 自分の地域に対して希望することはありますか？

Q. 市議会に提案できるとしたら、何かアイデアはありますか？やってほしいことはありますか？

中学生の回答

商業施設・娯楽施設

A. 秋田市にある「ラウンドワン」のような、中高生が気軽に集まって遊べるスポーツ・娯楽施設が欲しいです。

A. 友達と遊びに行くのは、秋田市、横手市。大仙市にも若者が楽しめる施設が欲しいです。そういう施設があれば市外からも人が来るかもしれません。例えば、ラウンドワンなどです。

A. 若者が減っているので、若者向けの遊ぶ施設があればいいと思います。

A. 車がなくても、徒歩圏内にスーパーや買い物ができる場所があれば、家族みんなが楽に暮らせると思います。

A. 角間川は買い物する場所がローソンしかありません。中心部にスーパーを建てるのはいいけれど、買い物に困っている人たちがいる、住む人が少ないところに1つでもあるといいと思います。

A. 友達と遊ぶ場所がありません。イオン以外にも楽しいお店が増えるといいと思います。

A. 遊ぶ場所ならラウンドワンがいいです。

A. テーマパークです。

A. 大曲のイオンに行きますが、冬は車で行くしかなく、大人も運転したくないと思います。近場に、ラウンドワンのように、遊べる、楽しめる場所があればいいと思います。

A. 今は大曲のイオンくらいしか行く場所がないので、別のショッピングセンターがあると嬉しいです。

A. いろんなお店があるショッピングモールがほしいです。都会にたくさんありそうなお店がいいです。



A. もっとイオンを増やしてほしいです。

A. コストコです。

A. 秋田駅前のような、雨の日でもイベントや散歩が楽しめる「アーケード街」が欲しいです。

A. 近場にももう少し遊べる所が欲しいです。冬は遠くに行けません。

A. 土日、家族と遊びに行くとき大曲イオンに行きますが、他にもみんなと遊べるアミューズメント系の施設が増えたらいいと思います。



体育施設

A. サッカーや陸上など、どんな競技でも天候を気にせず練習できる「ドーム型の大型屋内施設」があればいいと思います。

A. 運動が手軽にできる場所が欲しいです。バドミントンや卓球がみんなのできる広い屋内施設がいいです。

A. 室内で野球練習ができる場所が欲しいです。

A. 大きい体育館ができれば、スポーツの力でお金が稼げると思います。そこでバスケがしたいです。



その他

A. 大仙市内に、横手市のような、中高生が集中して勉強できるスペースが欲しいです。身近な所にあれば学習環境が良くなると思います。

A. 若い世代向けの楽しめる所があればいいと思います。ドンパン広場に公園ができましたが、そういうのが増えたらいいと思います。

A. 太田は人が少なく、若い人が出て行っている印象です。太田と言えばここ、みたいな施設が欲しいです。

議員からの質問

Q. 進学などで一度外に出たとしても、将来この街に戻ってきたいですか？

Q. 将来大仙市に戻ってきて暮らしたいですか？

Q. 大きくなっても大仙市に住みたいと思いますか？

Q. 大仙市に住み続けたいですか？

中学生の回答

大仙市で暮らしたい

A. 戻ってきたいです。将来はお医者さんになって、地域の診療所のように、地域に根ざした病院を自分で建てたいという夢があります。

A. 戻りたいです。人口が減っているのが寂しいので、それを止めるために自分ができることを見つけたいです。

A. 一度大曲から出て、最終的には育ててもらったこの街に恩返しをするために帰ってきたいです。

A. 最終的には戻ってきたいです。

A. ずっと秋田にいたいです。

A. 新しいことに挑戦するのが好きですが、最終的には戻ってきたいです。

A. 戻ってきたいと思います。自然が豊かで、地域の人も優しく住みやすいです。

A. 大仙市に住み続けたいです。県外の話聞いても住む場所とは違う気がします。安心感、フィット感があり、ここしか考えられないです。

A. 学生のうちは大仙に残って、将来的にも秋田には残りたいです。

A. 大仙市に残って、市内で働きたいです。身近に市役所で市のために働いている人がいて憧れを持っています。市に貢献したいという気持ちがあります。

大仙市以外で暮らしたい

A. 地元ではない、都会で暮らしたいです。

A. 秋田市や仙台市に住みたいです。楽しそうだと思います。

A. (大きくなっても大仙市に住みたいと) 思っていません。

A. 決めたわけではないけれど、大仙を出たいです。大仙ではできないことを他の所でやりたいです。





まだわからない

A. 一度は県外に出てみて、大曲の花火の良さなどを思い出すようなら戻ってきたいし、戻ってこないなら大曲にないものができるところに行きたいです。

A. 答えに迷います。いとこが仙台の大学に行っていて、話を聞くと楽しそうです。出て行くのもありかなと思ったりします。

A. 一回市外に出て、大仙市の良さを感じることがあったらそのまま残るかもしれません。市外に出た経験を踏まえて戻って何かしたいです。

議員からの質問

Q. 東京などの都会に住んでみたいという憧れはありますか？

中学生の回答

A. あまり住みたいとは思いません。ずっとここで暮らしたいです。

A. 本当はここに住みたいけれど、少しだけ興味があります。

A. 住みたくないです。



議員からの質問

Q. 進学等で市外に出て戻ってきたときに、仕事以外で「街を盛り上げるため」にやってみたいことは何ですか？

中学生の回答

A. 池田氏庭園や払田の柵など、地元が誇る歴史や自然を多くの人に知ってもらおう手伝いをしたいです。

A. お祭りを増やしたり、運営する側に回ったりして、大仙市ならではの活気を作りたいです。大仙市にしかない新しいお土産や特産品を自分で作り、街をアピールしたいです。

A. イベントを運営する側に回ってみたいです。

A. もっとたくさんいろいろな行事や祭りをやってみたいです。



議員からの質問

Q. 10年後、自分自身やこの街はどうなっていると想像しますか？どうなっていてほしいですか？

Q. 未来の大仙市はどうなっていると思いますか？

Q. 10年後この地域の理想の姿はどんな姿ですか？

中学生の回答

予測すること

A. 現在約7万人の人口が、10年後には半分以下くらいまで減ってしまうのではないかと思います。

A. 一人暮らしの高齢者が増えていると思います。

A. ガソリンスタンドやお店だけが残って、周囲が高齢者の家ばかりになって肝心の「利用する人」がいない風景になっているかもしれません。





- A. 人が少なくなって状況が悪化していると思います。
- A. 少子高齢化が進み若い人も減って、地域のにぎわいが少なくなっているのではないかと思います。
- A. 若い人が少なくなり、県全体に活気がなくなって静かな場所になっていそうです。
- A. 人が少なくなって、空き家、空き地が増えて殺風景になっていると思います。

理想の姿

- A. 願望として、県内の各駅に停車する電車の本数が 30 分に 1 本くらいになってほしいです。
- A. 若い人が増えてにぎわう地域になっていたらと思います。
- A. もっと発展して若い人が多くなるまちづくりができればいいです。
- A. 南外の祭り(さなぶり酒花火)には人が集まります。継続して参加者が多いといいなと思います。
- A. にぎわっていたらいいなと思います。

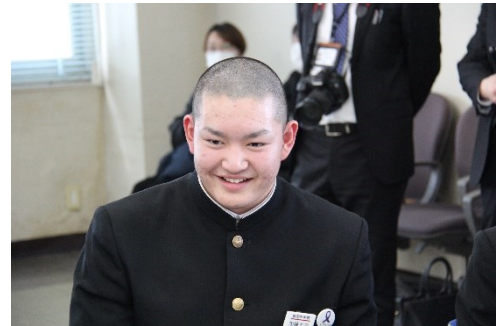


議員からの質問

Q. 学校で直してほしいところなどはありますか？
Q. 今すぐ、あるいは将来的に「ここを変えてほしい」と思うことはありますか？
Q. 中学校の校舎でいたんでいるところはないですか？
Q. 議員にしてほしいことはありますか？

中学生の回答

- A. 音楽室や理科室にエアコンがないので、設置してほしいです。
- A. 理科室などエアコンがないので付けてほしい。
- A. クーラーを学校の理科室などに設置してほしいです。バレー部に入っていますが、体育館も夏は暑いです。
- A. 私も学校にクーラーが欲しいです。吹奏楽部に入っていますが、音楽室が暑いです。
- A. 中学校の体育館がつるつるなので、直してほしいです。バスケットシューズでも滑ります。



議員からの質問

Q. 今の生活の中でここが良くなるとういなどと思うところはどこですか？
Q. 大仙市に対する要望を教えてください。
Q. 議員にしてほしいことはありますか？
Q. 地域をもっと良くするためにやった方がいいことは何でしょうか？
Q. 市議会に提案できるとしたら、何かアイデアはありますか？やってほしいことはありますか？

中学生の回答

- A. 大仙市の自然は他市と比べても誇れると思います。PR 活動が増えれば人を呼び込めるのではないかと思います。
- A. 電車・バスの本数が少なく、親の力を借りないと遊びに行けません。便利になればみんなが楽しめる場所になると思います。



A. 神岡に住んでいます。夏は時々自転車通学するのが楽しいので、クマの出没が抑えられればいいのに、と思います。

A. 祖父や祖母は農作業に行くときスマホを置いて行きます。クマの出没はスマホに通知されますが、他にも伝える方法があれば良いと思います。

A. 最近雪が多く、歩行者が通るところは雪がたまっているので、除雪がちゃんと行われれば、と思います。

A. 家は神岡にあります。神岡の花火は木が多く、見えそうで見えないです。植えてないものを切ってほしいです。切れれば見える範囲が広がってもっと人が来るかもしれません。

A. サンビレッジでバスケットボールの練習をしています。雨漏りしたり、外観などが劣化したりしているので、直してほしいです。

A. 去年の 10 月くらいに文化祭の準備で遅くなったときに、街灯が少なくて自転車で動物をひきかけたので、街灯を増やしてほしいです。

A. クマ対策にもっと力を入れてほしいです。



議員からの質問

Q. 将来、街の外(都会)に出たくなくなるためには、何が必要だと思いますか？

Q. 人口減少・少子高齢化が進んでいますが、大仙市に戻ってきてもらえるために何がありがたいでしょうか。

Q. 何があれば大仙市に住みたくなる、戻ってきたくなると思いますか？

Q. 大仙市がこうなればいいと思うことや、どうなれば戻ってきたくなるかの案があれば教えてください。

Q. 若い人、子どもが住み続けたくなる市はどんなところだと思いますか？



中学生の回答

A. 秋田には「お金を稼げる」という印象があまりありません。都会のように本社機能があったり、安定してしっかりもうかったりする「すごい会社」が地元があれば、残りたいと思うかもしれません。

A. 都会には新しいものや学べるものがたくさんあり、格差を感じてしまいます。地元でも同じように多くの経験ができる環境が必要です。

A. 秋田の良さは「自然」です。自然を好む人もたくさんいるはずですよ。そういう人に秋田を好きになってもらいたいです。その自然をもっと体験したり楽しんだりできる仕組みがあれば、ずっと住みたいと思ってもらえると思います。

A. 利便性が重要だと思います。電車は 1 時間に 1 本ですが、間隔を短くし利便性を高めれば大仙市に来やすくなると思います。

A. 大仙市は昼間の人口が少ないと思います。働きたくするような仕事場、就職先を増やせばいいと思います。

A. 若者は自分がやりたいことがないから市外に行ってしまうと思います。定期的に若者の興味のあることをやれば来てくれると思います。

A. 行事などをもっと PR すればいいと思います。少なくなっている若い人が興味を持っているような事業をやればいいと思います。





A. 子どもを産んだときの支援を増やせば住みやすくなると思います。

A. 遊ぶ場所がもっとあればいいと思います。他に、特産物を生かした飲食店を増やすなどもいいと思います。

A. お店自体が少ないと思いますが、何か行くきっかけができればいいと思います。

A. 他地域と差別化を図って、大仙市だけのいいお店があったり、行事やイベントを行ったりすれば人が来ると思います。

A. 花火は全国的に有名です。兄が県外に行っていますが、花火のときは戻ってきます。冬も雪を生かした花火くらいに全国的なイベントを作れば戻ってくるかなと思います。

A. 若者に対してのサービスが良く、「若者向けの施設があるところだ」と思います。大仙市ならではのものがあれば、出て行かなくなるのではないのでしょうか。

A. 秋田市は昔から栄えています。未来に残るような有名なものがあればいいと思います。

議員からの質問

Q. 大仙市または地域のいいところはどこですか？

Q. 大仙市の自慢できるところは？

Q. 地域の好きなどころはどういうところですか？

Q. 大仙市の魅力は何ですか？

中学生の回答

A. 花火のまちで有名なところ。県内外から多くの観光客が来ています。

A. 和栄堂です。

A. 協和体育館です。

A. 唐松神社です。

A. 地域のみんが優しいところです。

A. 雪寄せなど、地域のみんが協力できることです。

A. 祖父の友達は自分たちにもよく話しかけてくれ、フレンドリーに接してくれます。

A. 自然が多いところです。



A. 花火だと思います。大曲の花火は人多すぎて行けなかったりしますが、神岡南外の花火がとてもいいです。

A. 地域の皆さんと協力できることです。

A. 津波がなく災害が少ないところだと思います。立地がいいと思います。

A. 自然が豊かなところです。

議員からの質問

Q. 大仙市の魅力を市外に発信やPRするにはどうしたらいいのでしょうか？

Q. 市議会に提案できるとしたら、何かアイデアはありますか？やってほしいことはありますか？

中学生の回答

A. 花火を見に来た人から発信してもらえばいいと思います。

A. 伝統的な行事を通じて発信すればいいと思います。

A. インテリア関連で、市で採れた花を入れるなどして環境に優しいスノードームなどを作れたらプレゼントにいいと思います。

A. SNS を活用していったらいいと思います。

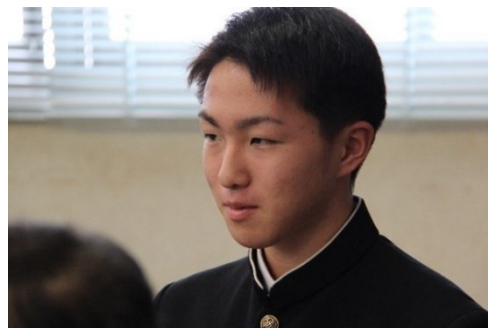
A. ドンパン祭りのようなイベントがあって、観光客が来れば魅力を感じてくれると思います。



感想発表

■大曲中学校 高橋 迅さん

今日の懇談会で大仙市の抱えている課題や必要なものが分かりました。私たち中学生も大仙市の将来のために行動していきたいと思いました。



■大曲西中学校 三浦 樹さん

僕はこの懇談会で大仙市の魅力だったり誇れるようなものだったりたくさん知ることができました。そして住みやすいまちづくりという視点からも意見を交わして深めることができました。中学校でもこの懇談会で話したことを意識して過ごしていきたいなと思います。

■西仙北中学校 高根 宗親さん

今日の懇談会で大仙市が抱えている課題、そして現状をたくさん知ることができました。僕たち中学生や若者がしっかりこの課題に向かって解決していかなければならないということが改めて分かりました。中学校に戻ってからも今日のことを意識して生活していきたいです。





■平和中学校 今野 駈 さん

本日はこのような貴重な機会をいただき、ありがとうございました。この懇談会では大仙市の未来についてというお話が心に残っています。これからは中学生として大仙市の未来について今の課題などを中学生としてできることを考えながら頑張っていきたいと思えます。今日はありがとうございました。

■太田中学校 上園 彬丸 さん

今日の懇談会では、大仙市の課題についていろいろ知ることができました。自分の質問に分かりやすく的確に答えてくれてとてもうれしかったです。普段見る議員さんとは違う一面が見られてとてもほっとしました。この話し合いで改めて議員さんのすごさを感じたので、僕たち大仙市民にできることをこれからしていきたいです。



挽 野 利 恵 広報広聴常任委員会委員長 あいさつ

皆さま、今日は朝早くから、午前中の中学生議会、そしてこの懇談会と長時間にわたり大変にお疲れさまでした。

お昼ご飯を食べた頃には、肩の力が抜けてゆっくりしたかと思うのですが、この議員さんとの話し合いはどうでしたか？先ほど「違う面が見られて」というお話がありましたが、私たちも生身の人間ですので、ぜひ何でも声をお寄せいただければありがたいというふうに思います。

今日の懇談会で改めて感じたのは、大仙市の未来は、大人だけでつくるものではないということです。皆さまのような中学生の目線や感覚があつてこそ、これからの大仙市は、より良いまちになっていくと思います。皆さんから出た意見や質問は、「こういうまちにしたい」「もっとこうしてほしい」という大切なメッセージです。今日出された声は、今後、議会の中でもしっかり共有して、まちづくりや政策を考える上での参考にさせていただきたいと思います。

そして、今日ここで話したことが「自分の住んでいるまちについて関心を持つ」「家族や友達と大仙市のことを話してみる」、そんな一歩を踏み出すきっかけになれば大変うれしいです。

大仙市議会は、これからも皆さまの声を大切に、話を聞くだけでは終わらない議会を目指してまいります。ぜひ、これからも遠慮なく意見を聞かせてください。

今日お集まりの中学生の中から未来の大仙市議会議員が生まれることを強くご祈念いたしまして、私からのお礼のあいさつとさせていただきます。

今日は、お忙しいところ、本当にありがとうございました。





令和8年 中学生議会感想

大仙市立大曲中学校

2年 高橋 迅

2年 三浦 芽依

私たちは、今年の大仙市中学生議会を通して、大仙市について深く考える貴重な経験をする事ができました。

議会では、「大曲の花火」を通して中学生が地域と関わる取り組みについて提案しました。老松市長から答弁をいただき、私たちの意見が真剣に受け止められていることを実感しました。中学生という立場で発言することに最初は不安もありましたが、私たちの言葉一つ一つに耳を傾け、丁寧に答えてくださる姿を見て、私たちの考えが地域の未来を考える上で大切な一つの意見になるのだと強く感じました。また、他の学校の意見を聞くことで、違う視点や考え方に気づき、大仙市の課題や魅力をいろいろな方向から考える必要があると感じました。

議員の方々との懇談会では、将来の大仙市や、今の大仙市の課題など、普段話さないことを話すよい経験となりました。議員の方々から私たちの話を真剣に聞いてくださり、中学生の意見でも市政に活かされているかもしれないと思い、政治により興味をもつきっかけになりました。他の学校の中学生の意見を聞くことで、新たな発見があり、大仙市の今をより広く知ることもできました。大仙市の未来については、私たちが真剣に考えなくてはいけない問題だと思います。懇談会だけで終わることなく、家族や友人との会話の話題にしていきたいと思いました。

今回の大仙市中学生議会と議員との懇談会を通し、市政に中学生が関わっているという実感を持ちました。この経験を生かして、大仙市をより良くするためにできることはないか考え、実行できる中学生でありたいと思います。



初めて参加した中学生議会では、貴重な経験をすることができました。中学生議会の準備段階から、自校での取り組みと大仙市での取り組みを関連付けて、大仙市の発展のためにどんなことができるかを考えました。低予算で実現可能な案を考えることは難しかったのですが、古紙・アルミ缶回収収益を活用した地域イベントへの参加促進のために、中学生が主体となって取り組める内容を提案しました。また、リハーサルでは、本番を想定して細かい動きを確認でき、本番を迎えるまでの不安が軽減されました。

実際に大仙市議会を行う会場で、三年に一度しか開催されない中学生議会ということもあり、本番でしか得られない緊張感を味わいました。また、この緊張を乗り越えたことで、自分の自信にもつながりました。本番では、緊張して少し間違えた部分もありましたが、自分の考えを伝えるということを意識して提案できたと思います。教育長さんがおっしゃっていたとおり、私たちの考えはより良い大仙市を目指す上でとても大切なものであると学びました。これからは、中学生議会で経験したことを生かし、大仙市のためにできることを自校生徒会でも考えていきたいです。

午後の市議会議員との懇談会では、グループのメンバーと今後の大仙市について話し合いました。こういうものが大仙市にあつたらいいなというテーマで、自分の考えや思いを積極的に伝えることができました。最初は緊張しましたが、話していくうちにみんなで大仙市について話し合う時間がとても楽しく感じられ、あっという間に時間が過ぎていきました。他校の意見を聞いていると、自分では考えることのない発想ばかりで、納得することが多く、一緒に良い大仙市を創っていけそうだと思います。懇談会を通して、深く感じたことは、自分も大切な大仙市民の一人であるということです。より良い大仙市を築くためには、議員さんの力だけでなく、自分たちを含めた一般市民も協力し、努力することが必要だと考えました。

議会での提案や懇談会で話したことがいつか実現し、さらに良い大仙市になるよう、私たちも努力していきたいです。



大仙市立大曲南中学校

2年 菅原 丈瑠

2年 最上 日咲

中学生議会に参加し、私たちは大仙市の未来について深く考える貴重な機会を得ることができました。各学校が意見を出し合うことで、自分たちの学校では出なかった考えに気付くことができ、さらにその意見に対して実際に市の方々が答弁してくださることで、「市」としての考えを知ることができました。未来について考えること自体は簡単ですが、それをどのように実現し、次へとつないでいくのかまで考えることの難しさを、改めて実感しました。

また、議会や懇談会では、少子高齢化が進む中で、若者にも高齢者にも対応する施策を考えることの大変さを再確認しました。県外に出る若者が増えている中で、「地元に残りたいと思わせるために何をすべきか」というテーマは、私たち中学生にとってもとても身近で、他人事ではない問題だと感じました。

中学生議会当日は、初めて入る議場や、市長さん、教育長さんをはじめとする多くの方々がいる慣れない場面に、不安や大きな緊張がありました。しかし、普段の学校生活では得られない貴重な経験をすることができ、他校の生徒の意見を聞くことで、自分たちの学校や地域と比べたり、より深く考えたりするきっかけにもなりました。

議案づくりでは、自分たちの学校や地域に何が必要か、より良くするためにどうしていくべきかを基に、学年全員で案を出し合い、委員で協力しながら一つの提案に練り上げていきました。その過程はとても難しかったのですが、大きなやりがいを感じました。実際に発言する場面では緊張もありましたが、私たちの意見をしっかりと届けることができ、大きな達成感を得ることができました。

私たちは大仙市の伝統や自然、風土がとても大好きです。今回の中学生議会は、そんな大仙市の未来を明るいものにするために、自分たちに何ができるのかを考えるととても良い機会になりました。来年度、私たちは三年生になります。この中学生議会で得た経験や学びを、これからの学校生活や委員会活動などにも生かしていきたいと思います。



大仙市立平和中学校

2年 今野 駈

2年 小林 愛奈

三年に一度という、とても貴重な機会をいただけたことをうれしく、光栄に思います。市長さんや副市長さん、そして教育長さんから直接答弁をいただけたことは、普段の学校生活では決して経験できないことであり、強く心に残りました。

議会本番はとても緊張しました。特別な場所に行くということを頭では理解していましたが、想像以上の緊張感でした。市政を動かす場というのは、やはりこれほどの特別な雰囲気があるのだということを肌で感じました。

平和中学校の出番のときには、生徒会皆で考えてきた質問を、自分たちなりにしっかり伝えようと精一杯頑張りました。教育長さんからは「人々の思いが込められた大切な財産である民話や伝承を語り継いでいくことの大切さ」についてお話していただきました。神岡に住む中学生として、この地域の歴史や文化について学び、大切に受け継いでいきたいという思いがいつそう強くなりました。

午後の議員さんたちとの懇談会では、私たち中学生の話に真剣に耳を傾けてくださる大人がたくさんいることを知り、とても心強く感じました。これまでは、議員さんというのは自分からすごく遠い人というイメージでしたが、今回直接お話したことで、市民や子どもたちのことを一番に考えてくれる身近な存在で私たちの一番の味方なのだと感じるようになりました。

自分たちが生まれ育った大仙市について、良さだけでなく、考えていかなければならない課題にも改めて目を向ける機会になりました。他の学校の人たちの意見を聞いたことで、神岡地域だけでなく、それぞれの地域ならではの、なくてはならない良さがあることにも気づきました。私たちが大人になっても、それらを守り続けていきたいと思います。

これからも大仙市の良さや残していきたいものを考えながら生活し、中学生の自分たちだからこそできることは何かを考えていきたいです。そして、どんな大人になりたいのかを意識しながら、日々の学校生活を大切にしていきたいです。



大仙市立西仙北中学校

2年 高根 宗親

2年 菅原 綾乃

三年に一度という、貴重な中学生議会に参加することができたことがとてもうれしかったです。提案をするときにどのような言葉を使ったら自分たちの思いが伝わりやすいのか、想像しながら原稿を考えました。何度か集まって話し方や資料の提示の仕方を練習することで、不安を少なくして本番に向かうことができました。議会当日、私たちの目の前には多くの職員の方々が座っていて、会場にいただけでとても緊張しましたが、練習通り自分たちの思いをしっかりと伝えることができました。提案に対して、市長さんからは丁寧に回答をしていただきました。これからも、地域のためにできることを考え続け、地域の活性化につなげていきたいと思えます。

議会で他校の質問を聞くと、私たちとは全く違う視点で大仙市を見ていることに気が付きました。話を聞くうちに、自分の中にも新しい提案や、もっと知りたいと思うことが浮かんできました。議会を通して、大仙市のさまざまな取り組みを知ることができ、今までとは違う視点で大仙市について考えるきっかけを得ることもできました。大仙市長さんをはじめ、多くの方々と貴重な時間を過ごすことができました。

午後の市議会議員の方々との懇談会も、始めは緊張していましたが、議員の方々がとても優しく、話しやすい雰囲気をつくってくださったおかげで、楽しく意見交流をすることができました。良いところだけでなく、改善していかなければいけないところにも目を向け、アイデアを出し合うことが、より良い大仙市を創っていくことにつながっていくのだと感じました。

今回、中学生議会や懇談会に参加した私たちだけでなく、学校全体で考え続けることで、大仙市をより良くすることにつながっていきたいと思いました。



大仙市立中仙中学校

2年 伊藤 笑花

2年 富岡 絢仁

中学生議会に参加してみて他の人が経験できない貴重な体験ができたと思いました。午前の議会では、「コスモスで地域を活性^か華」というテーマで質問をしました。この質問に対するご答弁を聞いて、秋桜プロジェクトをさらに展開していくには、地域との連携を大切にしながら、中仙中学校自体ももっとコスモスの輪を広げ、大仙市の花であるコスモスで地域を活性「華」していくことが必要だと分かりました。また、私は議長という大役を務めました。議長は議会の進行をしなければならず、大変で緊張もしました。しかし、オンラインリハーサルを含めて個人的にたくさんの練習を重ねたため、本番も練習通り進行することができました。最初はすごく緊張しましたが、議会終了後には、議長という大役をやり遂げた達成感でいっぱいでした。この経験を学校生活や今後の生活に活かしていきたいと思います。

午後の懇談会では、間近で議員さんとお話することができてとても新鮮でした。大仙市に住んでいて便利な点、不便な点、改善点などを共有し合い、これからの大仙市をどのようなまちにしていきたいかイメージを広げることができました。大仙市は、少子高齢化の課題が前提としてあり、若い人の県外への流出が激しいことが問題だと議論しました。私たち若い世代が大仙市を支えていかなければならないと感じました。議員の皆さんは、私たちの質問に対して優しく丁寧に答えてくださったので、安心して伝えることができました。

私たちは将来、これまで育ってきた大仙市に恩返しできるような仕事に就きたいと思っています。その夢を実現させ、貢献していくために今回の経験を踏まえて今から考えていきたいです。



大仙市立協和中学校

2年 進藤 嘉人

2年 加藤 大志

今回初めて、大仙市中学生議会に参加させていただきました。このような機会を与えてくださり、ありがとうございました。

中学生議会に参加するにあたり、主に地域の課題を把握するところから始めました。調べていく中で、自分たちの地域を良くしたい、地域や社会に主体的に関わっていきたいと思うようになりました。そして、いただいた各課題に対する資料に目を通し、自分たちが提案する課題がより明確になりました。その後、質問の練習をしました。読むペース、目線、間の取り方など、「自分たちが聞き手だったら」と想像しながら、どうすれば伝わるかを考えました。冬休みに入り、学校に登校しない中でも、各自で練習し、完璧に読むことができるように練習に励みました。

そして1月6日のリハーサルでは、本番の動き、お辞儀をするタイミングなどを確認して、不安を取り除くことができました。

議会本番では、私たちからの提案型の質問に対して、市長さん、副市長さん、教育長さんから丁寧にお答えいただき、とてもうれしく感じました。私たちの意見も受け止めていただき、大仙市の未来を真剣に考えてくださっていると感じました。

中学生議会でいただいた回答を参考に「ちいきみんなのきょうわ祭」で地域の方々との連携強化を実行していきたいと強く感じました。また他校の中学生の取り組みや意見を知ることができ、とてもよい経験になりました。他校と連携する大切さも学ぶことができ、本校でもぜひ参考にして取り組み、積極的に活動していきたいです。

今回の議会を通して、中学生として大仙市に関わることができたとともに、これからも地域のために考え、行動していく意欲が高まりました。



今回の中学生議会では、実際に議場に行って質問したり、懇談会で議員さんと大仙市の未来について話したりしました。議会では、実際に議場に立って質問をしましたが、全校の前で話すよりも緊張しました。それでも、自分たちの意見を直接届けることができたのは、とても貴重な経験だったと思います。

また、中学生議会に参加して、今の大仙市がどのような取り組みをしているのかや、大仙市の中学生がどんなことを大仙市に求めているのかを知ることができました。懇談会では、大仙市がこの先どうなっていけばよいか、もっとこうなってほしいという思いについて意見交換を行いました。地元の中学校出身の議員さんや、他校の生徒会の方々と話すことができ、とてもおもしろく、刺激を受けました。

他校の意見の中には、南外中学校だけではなかなか出てこないと思うような考えもあり、興味深く感じました。それぞれの学校や地域によって考え方や視点が違うことを知り、自分たちの視野が広がったように思います。

この中学生議会を通して、議員さんや他校の生徒会の方々と関わることができ、たくさんの学びと気づきを得ることができました。中学生議会は三年に一回という貴重な機会なので、とても良い経験ができたと感じています。



大仙市立仙北中学校

2年 佐々木咲来

2年 小松 依史

今回の中学生議会に参加し、議会での一般通告や副議長としての議事の進行、議員の方々との懇談会に参加できたことは貴重な経験となりました。

一般通告ではトップバッターということもあり、とても緊張しました。しかし、仙北中の生徒会執行部のみんなで作成したり、一緒に練習したりするなど、それまでに協力したことを生かして、しっかり考えを述べることができました。市長さんをはじめ議員の方々に我々の考えを伝えることができたと同時に、意見を出すまでのプロセスがとても大変なことに気付きました。今回の経験を学校内で発信し、市政への関心を高める機会にしたいと思いました。

一般通告の後半場面では、副議長として議事を進行させてもらいました。なかなか座ることのない席なので少し緊張しましたが、練習通り進行することができました。意見を聞きながら進行することの難しさを痛感しながらも、うなずきながら通告内容を聞いたり話すスピードに気を付けたりすることができてよかったと思います。

午後からの議員の方々との懇談会では、議員の方々が丁寧に質疑応答をしてくださいました。趣味や将来の夢などの話題で私たちの緊張をほぐしてくれたので気軽に話すことができました。議員の方々と私たちの意見が少し違う部分もありましたが、その違いを踏まえて大仙市をより良くしようとする思いが伝わってきました。私たちの考えを真剣に聞いてくれてとてもうれしかったです。大仙市の現状や今後について知ることもでき、有意義な懇談会でした。

議員の方々だけではなく他校の皆さんとも交流することができ、大変充実した時間を過ごすことができました。私たち中学生でも大仙市をより良くするためにできることがあることを改めて実感しました。この貴重な経験を今後の生徒会活動等に生かしていきたいと思います。



大仙市立太田中学校

2年 上園 彬丸

2年 藤峰 咲耶

この度は、中学生議会という貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。私たちはこの経験を通して、大きく二つの成長をすることができました。

一つ目は、ふるさとである大仙市について、これまで以上に深く考えることができたことです。大仙市にはどのような課題があるのか、また、どのようにすれば大仙市の魅力をもっと多くの人に伝えられるのかを、普段とは違う視点から考えました。中学生として大仙市のためにできることを必ず見つけたいという強い気持ちで、準備を進めました。全校生徒にアンケートを行い、みんなの思いを背負っているという責任も感じました。また、原稿を作成する中で、推進員の野中さんや中里温泉の鈴木さんなど、地域の方々からたくさんアドバイスをいただきました。地域の方々の温かさや支えを改めて感じ、大仙市の中学生として、これからの大仙市を支えていく一人なのだ実感しました。この経験を通して、ふるさとについて深く考えられたことが、私たちの成長です。

二つ目は、老松市長さんはじめ、大仙市を支えている方々の前で、自分たちの思いを発表できたことです。昨年十一月に先生から中学生議会の話を聞いたとき、「本当に自分にできるのだろうか」と、とても不安になりました。しかし、話す速さや間の取り方、目線、立ち方などを意識しながら何度も練習するうちに、不安は少しずつ自信に変わっていきました。本番では、これまでの練習の成果を発揮することができ、太田中学校の代表として、悔いのない発表ができたと思います。この経験は、これから先の学校生活や将来にも必ず生かせると感じています。

今回の中学生議会で学んだことを、これからの生活や将来につなげ、大仙市のために自分にできることを考え、行動していきたいです。このような貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

